

# 述語補語統合型の統合意義特徴

—— 動詞と形容詞との組み合わせを対象として ——

大 滝 幸 子

- 1 はじめに
- 2 調査資料の作成
  - 2.1 調査資料の収集
  - 2.2 基礎資料 I の統計的処理と【パターン表】作成
- 3 統合型意味分析のための理論的準備
  - 3.1 用例を検討する準備としての【統合型変換表】
  - 3.2 用例を検討するための基本概念
  - 3.3 VA型からV得A型へ変換できない用例の7類型
- 4 7類型の分析
  - 4.1 形容詞の意味の特殊化—【M1リスト①】の用例
  - 4.2 動詞の流相への評価—【M1リスト②】の用例
  - 4.3 対象物の変化への判断—【M1リスト③】の用例
  - 4.4 動作主の身体に生じる変化—【M1リスト④】の用例
  - 4.5 行為や状況に関わる場面の変化—【M1リスト⑤】の用例
- 5 V得很A形とV得AA形の対比—【M2リスト】の用例
- 6 VA型とV得A型の統合意義特徴
- 7 おわりに

## 1 はじめに

実詞が2個以上組合わさってできる統合型について、その文法的意義特徴（以下、「統合意義特徴」とする）をあきらかにするには、同じ実詞の組み合わせがどの統合型でどのような意味（以下、統合意義特徴と統合型を構成する単語の意義素とが合わさった意味を「統合意義」とする）を表すかを調べ、相互に比較する方法をとるのが効果的だと考えられる。

特に中国語は、語順そのものが文法構造を決定する言語（例えば、NV＝主述統合型、VN＝述賓統合型）である。また、接続関係を表す形式や、動詞が名詞によってどの格を補充しているのかを表す形式（例えば、日本語では格助詞、英語では preposition）が少なく、使われる頻度も高くはない。その結果、一つの統合型の統合意義に加わる「文脈意義」（前後の文脈が表す、文法的にみて有意義な意義。つまり、形式の使い方に何らかの制限を加える文法的機能。）も判然としにくく、「意合法」とか「対の思想」と名付けられた修辞法への熟達度が文脈理解ひいては文学鑑賞の水準を左右することになる。

例えば、“做大”という動補構造は次のような用法をもつ。

(1) 这男孩儿长得很快，就是衣服做大了，也没问题。

(2) 这男孩儿长得很快，最好把衣服做大一点儿。

この(1)(2)で用いられた動補構造が表す統合意義にはどれだけの種類の意義特徴が含まれているであろうか？

中川正之 1987「中国語と日本語の形容詞」日本語学 10月号 p 49-57 明治書院  
では“做大”を例にとりこう指摘している。『日本語の「服を大きく作る」』には、「大きく作る」と「服を作る」の二つの意図が込められているが、中国語の「我做大了衣服」は一つの意図、つまり「服を作る」しかないのである。「服を作ったが（その服はたまたま）大きかった）」のである。「大きい」のは

付随的な出来事に過ぎない（二つの意図をはたらかせて「服を大きく作る」は、中国語では、「我把衣服做大」のように前置詞「把」で目的語をVの前に引き出す。』（p53）この指摘は的確なものであり、表層構造から動補構造を単一の文法構造とみなしたうえで、その文法的意味をも単一のものとして意図と結果の関連づけの面から検討してみると、中川1987の次の結論以上の分析結果は出し得ないと考えられる。『結局のところ、中国語の結果補語構造は、Vの指す事態とAの指す事態との並存を言うのみである。1や2に属するものに（注一結果補語構造を5つのグループにわけて論じ、“做大”は4のグループに属させてある）、意図が強く感じられ「……の事態に至れるようにする」というパラフレーズが一見対応するかに見えるのは、Vの意図がAに阻害されることなく、この構造に滲み出ているにすぎない。』（p52）

本稿の文法分析の基本的な立場では、“做大”の統合意義を「文法レベルを異にするいくつかの文法範疇に所属する意義特徴」へ分解してその相互関係と発現の優先順位を考察しようとする。例えば例(1)は次のように分析できる。

〈単語レベル〉＝①“做”の動作主格（意図をもつ）は不定人称者のまま、生産物格（動作の開始時には存在していなかった事物）は「衣服」が担う。②“大”の判断対象格（判断方法としては連続スケールを用いる、スケールを代表する方向を示す）は「衣服」が担う。

〈統合型レベル〉＝①語気助詞“了”の文法的意義特徴（形容詞と共起する＝発話時点での事態の新発見または動詞の介在による新事態の成立を表す。）②生産物格（後置格）の前置（移動が表す文法的意義特徴＝“做”の動作主格がもつ有意志特徴の消滅などを表す。）③裸のVに裸のAを後置する統合型の統合意義特徴（本稿が分析する対象）を表す。

〈文脈意義Ⅰ・叙述レベル〉（他の叙述内容つまり事柄・論理の表現によって選択決定される）＝“大”のスケールが適正基準に対してあてられる。

〈文脈意義Ⅱ・陳述レベル〉（話し手の意志・価値観によって選択決定され

る) = “做大” が言い切りの位置にないので、原則として付加されていない。ただし、その発話が外界の何を指し示しているかという「外界での意味領域の設定」に関しては、発話時点・発話場面における話し手の意志・価値観（自分に対する位置づけも含む）が、その統合型の文中の位置に関わらず、強い選択決定権を発揮することがある。例えば“大”に嫌悪（貶義）がこめられるかどうかなど。

さて、このような手順を踏んで統合意義の内容を検討していくならば、いくつかの統合型を比較対照して、その統合意義特徴を考察できるようになるはずである。例えば例(1)の“大一点儿”が表す意図（単独ならば命令表現）と“做大”が表す意図とのレベル差と性質の違いをうかびあがらせることができるであろうし、次の例(3)の連用修飾語が担う意図との違いも明らかにでき、文法的意義特徴をより具体的に記述できると考えられる。

(3) 这男孩儿长得很快，要省事儿就得把衣服大大地做。

次に、統合型どおしを比較検討することの方法論上の価値を確認しておく。

現代の意味論の常識として、言語形式は「形式相互の役割分担に支えられて、外界や精神界、言語表現そのものを指示対象としてカバーする記号」とみなされている。例えば國廣哲彌は「意味論の方法」1982 大修館書店の中で意味学説のひとつとして弁別の特徴説を紹介してこう述べている。

『弁別性という基準を用いるのがこの説の特徴であるが、一般に言語的要素が対立によって機能を生じるという基本的性格を持っている以上、当然でてくる考え方である。ただし、弁別性のみで機械的に割り切ることによって、すべての意味現象、われわれの言語的直感を十分に説明できるかどうかは、つねに留意を怠ってはならない点であると思われる。』 (p25)

池上嘉彦 1975「意味論」では示差的特徴という概念を提起して、つぎのように述べている。『ある語の使われ方を他の語の使われ方と区別するのに必要な特徴を「示差的特徴」(distinctive feature) と呼ぶ。』(p83) 『「示差的」と

というのは言語的な概念である。それは純粋に言語の構造に基づいて規定されるものであり、それゆえ、たとえ同一の特徴であっても、ある言語では示差的、別の言語では非示差的ということもおこってくる。Saussure以後、構造主義の立場に立つ人たちによって、「語の意味は他の語の意味との関連で決まる。」ということが言われてきたが、上のような意味にとれば、全く正しいということができる。』(p86)と考察している<sup>(1)</sup>。

これらの考察結果は、「言語形式の一種である統合型」の統合意義特徴を考察するに際しても、統合型間にどのような体系または相互関係があるかを検討する必要があることを示唆しているといえよう。

以上述べてきた事由に基づき、特に中国語を対象とする文法研究では、たとえ典型的な用法に於いても統合意義の中から統合意義特徴を取り出すためには、単語の組み合わせを固定して統合型だけを変換して分析する方法が、効果を発揮するものと考えられる。

本稿は中国語の動詞(V)と形容詞(A)とが構成する次の三種の統合型をとりあげ、その統合意義特徴を明らかにすることを目的とする。

I, 述語結果補語統合型(VA型)

II, 述語様態補語統合型(V得A型)

III, 状語中心語統合型(A地V型)

ただし、I II型とIII型とでは文法機能上大きな違いをもつことが従来より指摘されてきているのに対し、I II型は文法用語として一時は結果補語として一括して扱われるほどに似通っているという語感が存在する。そこで、本稿ではまずI型とII型との対比を通してその統合意義特徴を明らかにし、稿をあらためて、III型の統合意義特徴を分析することにする。

なお、ここでの形容詞とは形式上以下の3条件を満たすものに限る。

- ①程度副詞“很”または“太”の修飾をうけられる。
- ②2音節語が重畳形式に成る場合はXXYYの形になること。

③構成要素として形容詞の付帯成分を含まない。

したがって“够，明，兴奋，黑黝黝，”等は除外してある。ただし，“错”“糊里糊涂（“糊涂”の重疊形）”はどの研究書でもとりあげているので，調査資料に含めた。

## 2 調査資料の作成

### 2.1 調査資料の収集

「基礎資料Ⅰ」は，北京語言学院出版社1987《汉语动词—結果补语搭配词典》の項目の中から，形容詞が結果補語に使われていると見なせるV A型の用例を取り出し，各々，V得A型（V得A・V得很A・V得AA的の3形式），A地V型（A地V・很A地V・AA地Vの3形式）の6種の文法形式のどれに入れるかについて，インフォーマント調査を行った結果を示すものである。項目にたてられた形容詞数は199個（同音異義語を区別すると+54個）である。

調査は，統合型が成立するかしないかについて，次の4段階の区別をつけた内省報告を求める方式で行った。

◎＝よく使う（単独ですぐ理解できる）

○＝特別な条件をみたま文脈で使う。例文を必ず付ける。

△＝自分は使わないが使う人もいる

×＝使えない（文法的誤りがある）

1回めの調査では3人のインフォーマント<sup>(2)</sup>からそれぞれ内省報告を集め，2回めはその食い違いのあった箇所だけを集めて再び解答を求めた。最後まで語感に違いが残った場合は，統計の資料としては最年長者の意見を取り上げた。また，△印で報告された用例は，今回はこの3人の個人言語に含まれないものとして使えない用例にふくめて処理したが，用法の変動状況を示す資料として北京市民のなかでの容認度を表す尺度として用いることができるはずである。

後日統計資料を増やす際に検討を加えたい。

わずか3人の個人言語であるが、詳しいチェックをかけることにより、標準語の様相を相当程度正確に示す言語資料となっているものと考えられる。

次に「基礎資料Ⅱ」として、安汝磐編著『实用汉语形容词词典』中国标准出版社1990の用例の中から、「作状語、作補語」とされるものを取りだし、基礎資料Ⅰで取り上げた形容詞の用法を補足した。必ずしもⅠ型を持つとは限らない用例についても検討できるところにメリットがあり、また、その用例について基礎資料Ⅰと同様のインフォーマント調査を行った。稿をあらためて、Ⅲ型とⅠⅡ型とを対比検討する際に提示する。

最後に、程度補語、結果補語に関する諸論文の中から、注目すべき用例をとりあげて本稿の視点にたった検討を加えた資料が若干ある。具体的には、3.2項で扱う。

なお、外語教育与研究出版社1984《汉语常用动词搭配词典》の用法記述の中からも、[～補]〈程〉(＝V得A型)と[状～](＝A地V型)の用例のうち、形容詞が使われているものを抜き出し、他の2種の統合型(VA型とA地V型またはVA型とV得A型)のどれに入れるかについてインフォーマント調査を行い、一部を用例分析の参考とした。項目として取り出した動詞数は、[～補]〈程〉164個[状～]156個、用例総数は各々733例、571例である<sup>(3)</sup>。

## 2.2 基礎資料Ⅰの統計的処理と【パターン表】作成

基礎資料Ⅰをもとに形容詞の3種の統合型における使われ方を整理するために、本稿では【表1】ようなパターン分けを行った。すなわち、Ⅰ型(VA型)のなかで用いられるVとAとが、Ⅱ型(V得A型)と、Ⅲ型(A地V型)のなかでどう使えるかを、4パターン(典型、M1、M2、M3)に整理した。基礎資料Ⅱの中で、基礎資料Ⅰと同じ形容詞と同じ動詞を組みあわせたⅡ型やⅢ型が見つかった場合は、その用例の形式を示す【表1】の欄に○印をつけ、パ

ターン分けを行った。

【表1】 ○×は使える・使えないを表す。

I 型 (VA 型)	II 型 (V得A型)			III 型 (A地V型)		
	V得A	V得很A	V得AA的	A地V	很A地V	AA地V
典型パターン	×	○	×	×	×	×
M1パターン	×	×	×	典型(×××) or M3		
M2パターン	×	○	○	典型(×××) or M3		
M3パターン	典型 or M1 or M2			○が1個でもある		

典型パターンは(V得很A)式にだけは入れるものである。M1, M2パターンは, V得A型へのほかの入り方(全く使えない, V得AA的にも入れる)を示し, A地V型のことは規定していない。A地V型に全く入れなければ, 典型パターンと同じなので, 典型パターンの用例としてはカウントしないが, (A地V)(很A地V)(AA地V)のうち一つの式にでも入れれば, M3パターンの用例としても重複してカウントする。M3パターンは逆にA地V型に一つでも入ることを示し, V得A型のことは規定していない。典型パターンと同様, (V得很A)式にだけはいる場合はM3にだけカウントし, 他の式にも入る場合は各々, M1パターンまたはM2パターンにも重複してカウントする。

この4種類のパターンわけとカウント方法をもとに, 最上段にVA型に入る形容詞とその用例総数(基礎資料Iでは組合わさる動詞1個につき用例1個), 其の下に順に, 典型パターン, M1パターン, M2パターン, M3パターンに属する用例数を書き入れた【パターン表】を作成した。

【パターン表】の形容詞の同音異義の区別は原則として《汉语动词—結果补语搭配词典》の分類に従った。表中の破線で区切られた欄が同音義語を示す。M2, M3欄についている☆印は, 形容詞の重畳形(AA的, AA地)しか使えないことを示す。M3欄の数字に◎印がついている場合は, A地V型の3式



すべてが成立することを示す。また、用例が1つしかなくしかも特殊なものと認め得る場合は、組合わさる動詞を書き入れた。

形容詞を書き込んだ欄には次の区別がつけてある。①★印は基礎資料Ⅱからの補充を示す。②強調文字になっている形容詞は、陆俭明, 1990《“V A了”述补结构语义分析》汉语学习第1期 p1-6 において取り上げられた144個の形容詞に含まれるものである。③アンダーラインがひいてある形容詞は上記論文144個の中で、褒貶形容詞とされているものである。

さて、本来ならば、収集したすべての用例を提示しつつ論を展開するべきであるが、本稿では紙幅の都合もあり、形容詞の文法的意義特徴のなかの示差的特徴を表す確率のたかい情報として、「中国の辞書編集者がとりあげた形容詞と動詞との典型的統合パターン」が他の統合型に変換できる可能性を【パターン表】の数値であげるにとどめた。この【パターン表】が提供する情報は、文法資料としてどの程度の価値があるといえるだろうか？

語義的意義特徴はもちろんのこと、文法的意義特徴も社会的共通知識・常識の蓄積の一つとして存在しているのであり、使用頻度の高い用法がその典型的特徴を人々にインプットしていることは疑いない。辞書は良心的なものであればあるほど、その単語の用法の典型（プロトタイプ）を残らず取り上げようとするはずである。したがって、数値だけとはいえ【パターン表】に表わされた統合パターンの種類は形容詞ごとの文法的意義特徴の一部を的確に示唆しているものと考えられる。また、統合パターンごとの用例を検討していくことにより、個々の形容詞と動詞の組み合わせに共通する文法的特徴を見いだすことができ、統合意義特徴をその統合型全体が表す意味（＝統合意義）から抽出するための資料とすることができると予想される。

### 3 統合型意味分析のための理論的準備

#### 3.1 用例を検討する準備としての【統合型変換表】

統合パターンごとに用例を検討する前に、これまで中国語の動補構造について指摘されてきた「統合型間の変換可能性」に関する特徴を【統合型変換表】として概括し、用例検討に際しての基本的了解事項として扱うことにする。

【統合型変換表】作成に用いた論文は次の5点である。ただし、これらの論文はその論考を参考とするのではなく、その指摘している「典型的な変換方式」を本稿の調査資料と対照するためにとりあげた。すなわち典型的な変換方式を見落さないため、また典型と特殊例との区別をつけれるようにするためにとりあげたものである。

李臨定 a.1980, 动补格句式 中国语文第2期 p93-100

b.1988, 汉语比较变换语法 中国社会科学出版社

“十, 受事格的类型比较及变换(2)” p153-165

马希文 1987, 与动結式动词有关的某些形式 中国语文第六期 p424-441

今井敬子1985, 「結果を表す動補構造の統辞法」 中国語学232 p23-32

町田茂 1991, 「動詞－賓語－動詞－結果補語」式の文法的意味

—— 処置の“把”と非処置のV 中国語学238 p86-96

【統合型変換表の構成】典型Ⅰ～Ⅳまでの表層形式とその内部の深層構造の分類からできている。内部の意味構造を表す方式として本稿では、「動詞とその意義素内に含まれる格」及び「形容詞とその意義素内に含まれる格」とを表す表層の名詞Nと、「その名詞に格を担わせる動詞Vまたは形容詞A」との深層構造における格関係をおのおのまとめて( )でくくり、「(Vの格関係) + (Aの格関係)」という表記を使った。「( ) A」という表記は( )がAの判断対象格であることを示す。①～⑤の番号は、これらの格関係が同じものを指

す。なお、これらの論文は補語を必ずしも形容詞と限っていないので、用例が動詞を補語とするものには、アンダーラインをつけてある。また、V得A型では【パターン表】で扱わなかった“A了”形が取り上げられている箇所があるが、結果補語が形容詞の場合そこにも“很A”がなりたつかどうか、インフォーマント調査をした。

変換表内の符号の用法は次の通り。

Ns=動詞の前置格・動作主, No=動詞の後置格・対象or生産物,

Vi=自動詞(後置格をもたない), Vt=他動詞(後置格をもつ)

A=形容詞

李a. 中の分類名をそのまま引用したもの=李a 1 A, 李a 1 Bなど,

V得A(得1)=V得+AorVi,

V得A(得2)=V得+N+AorViorVtNo

変換表は、1・1～4・2まで合計17葉にわけられる。

【統合型変換表】 動詞が自動詞の場合。

典型I ; N / {VA} 了

1・1

把No	被Ns	V得A(得1)
		Ns/V得很A

①李a 1 B = (NsVi) A

你出来巧了。 你别在那儿呆久了。 他睡死了。

1・2

把No	被Ns	V得A(得1)
		Ns/V得很A

②李a 1 A = (NsVi) + (NsA)

【a組】 你长胖了。 你胆子变小了。 姑姑该睡醒了。

1・3

<del>把No</del>	被Ns	V得A (得1)
把Ns/V A了		Ns/V得很A

②李 a 1 A = (NsVi) + (NsA)

【b組】主語が賓語の位置にも置ける。

他急哭了→急哭了他。

一只小马驹没有奶吃，竟瘦死了。→瘦死了一只小马驹。

您別又穷疯了，胡说乱道的。→又穷疯了您。

你爸爸老胡涂了。→老胡涂了你爸爸。

他吃胖了。→吃胖了他。

→他吃峡北的小米吃胖了。

1・4

把No	被Ns	V得A (得1)
		Ns/V得很A (了)

①or ②李 a 1 AB = (NsVi) Aor (NsVi) + (NsA)

客人去远了，看不见了。 车走慢了。 ?

1・5

把No	被Ns	V得A (得1)
Ns1/把Ns2VA了		

③马 领属性主語 = (Ns1的Ns2Vi) + (Ns2A)

小王的孩子冻病了。

典型Ⅱ; N / {VA} 了No 動詞が他動詞の場合。

2・1

把No	被Ns	V得A (得1)
Ns/把NoVA了	No/被NsVA了	No/NsV得很A

①李 a 3 D = (NsVtNo) A

他瞄准了靶子。 他看清了那个人。

①李 b 第2小类 p157

他喝多了酒。 我找错了门牌号。 我抽足了烟。

感谢神圣的抗战，我看清了自己。

我认多了字，念新词不是更容易了吗？（※被Nsは不成立）

以前，咱们受够了欺负，——。

他们看惯了把花朵儿扎成圆平面的菊花。

【多，少，错，足，够，清楚，牢，紧，惯】

2・2

把No	被Ns	V得A（得2・得1）
Ns/把NoVA了	No/被NsVA了	No/NsV得A了

②李 a 3 B = (NsVtNo) + (NoA)

【a組】 大水骂哭了小水。 不知谁翻乱了我的书。

你别惹急了他。

弟弟削尖了铅笔。 他们填平了土炕。

他点亮了油灯。

②李 b 第1小类（のうちの一部分） p155

你害苦了我。 小马驹踏痛了她的脚。

（你们）招急了我，我也会撒撒野！

？我一拳揍扁了你们俩。（調査では※V得A型なし）

程先生摘下……眼镜，在衣襟上揩干镜片上的泪水。

2・3

把No	被Ns	V得A（得1）
Ns/把NoVA了		Ns/把NoV得很A

③李 a 3 B = (NsVtNo) + (NoA)

【b組】 ; 分離不可能型 (Ns 的No) →コントロール可能

你挺直了身子。 →挺直了你的身子。

→你的身子挺直了。

我咬紧了牙。 他伸平了胳膊。

2・4

把No	被Ns	V得A (得2)
Ns/把NoVA了	No/被NsVA了	Ns/V得A很A了

④李 a 3 C = (NsVi) + (NoA) →NoはVと格関係にはない  
→ (Ns1Vi) + (Ns2A)

【a組】 孩子哭醒了我。 大风刮倒了小树。

密雨下黑了天地。(→本稿では別のグループ分け)

④今井 (「間接動補」による補充)

胖子坐塌了椅子。

妹妹哭乱了我的心。

2・5

把No	被Ns	V得A (得2)
Ns/把NoVA了	No/被NsVA了	Ns/V得No～了

⑤李 a 3 C = (NsVi) + (NoA) →NoはVと格関係にはない  
→ (Ns1Vi) + (Ns2A)

【b組】 ; 分離不可能型→無意志・コントロール不可能

她哭红了眼睛。

连肖队长也笑弯了腰。

我喊哑了嗓子。 →喊哑了我的嗓子。 我的嗓子喊哑了。

(Ns が人称代名詞の場合に限り, [被] 成立)

典型Ⅲ ; N / VNo・{VA} 了 動賓統合型を前置する場合

3・1

把No	被Ns	V得A (得1)
		Ns/VNoV得很A

①李a 2 B = (NsVtNo) A

【a組】 典型Ⅱが成立しない組み合わせ

你动笔动早了。 他骑车骑快了。

这孩子走路走利落了。

3・2

把No	被Ns	V得A (得1)
Ns/把NoVA了		

②李a 2 B = (NsVtNo) A

【b組】 典型Ⅱへの変換ができる組み合わせ

他抽烟抽足了。→ 他抽足了烟。

我出气出够了。→ 我出够了气。

3・3

把No	被Ns	V得A (得1)
Ns/把NoVA了	?	Ns/VNoV得A了

NoVA了の受け身表現が多用され, “被” はあまり使われない。

③李a 2 C = (NsVtNo) + (NoA)

我做饭做少了。 你挖坑挖浅了。

你买鞋买贵了。 (c.f ; 本稿 4.7 参照・把No は不成立)

3・4

把No	被Ns	V得A (得1)
Ns/把NoVA了	No/被NsVA了	Ns/把NoV得A了

④李b 第3小类 p159 典型Ⅱが成立しない組み合わせ

你裁裤子裁短了。 你炒菜炒少了。  
 你买鞋买贵了。 他们搭凉棚搭矮了。  
 你挖坑挖浅了。 你画他的眼睛画小了。

【长, 短, 多, 少, 大, 小, 高, 矮, 薄, 厚, 深, 浅, 贵, 贱】

3・5

把No	被Ns	V得A (得2)
Ns/把NoVA了		VNo/V得NsA了

⑤李a  $2A = Ns + (VtNo) + (NsA)$

【a組】VtNoを省略できない組み合わせ

老张熬夜熬病了。 我丢东西丢了。

⑤町田C類Ⅱb 孩子吃零食吃病了。 他听相声听笑了。

我唱戏唱怕了。 他唱歌唱红了。

他吃肉吃胖了。

【b組】VtNoを省略しても良い組み合わせ

(VNの組み合わせそのものが固定されている)

他(喝酒)喝醉了。 他(走路)走累了。

⑤町田C類Ⅱa 我干这样的事情干腻了。

典型Ⅳ

; N / VtNo1・{VA} 了No2 (本稿では未調査)

4・1

把No	被Ns
NsVNol/把No2・VA了	No2/被NsVNolVA了
V得A (得2)	
Ns/VNolV得No2A了	

①李a  $4B = (NsVtNo1) + (No2A)$

【a組】他们吵嘴吵醒了我。



他们挖防空洞挖空了那里的山。

①町田C類IV 我洗碗洗脏了袖子。

我打家具打坏了几块好木料。

我提肉提断了两根绳子。

4・2

把No	V得A (得2)
NsVNo1/把No2・VA了	Ns/VNo1V得No2A了

②李a 4 B = (NsVtNo1) + (No2A)

【b組】 ; 分離不可能型 (Ns 的 No2)

他拍桌子拍疼了手。

他喝酒喝红了脸。

他喊人喊哑了嗓子。

→ 拍桌子拍疼了手。他的手拍桌子拍疼了。

### 3.2 用例を検討するための基本概念

【統合型変換表】で典型的表層構造としてI～IVをとりあげているのは、まず動詞の格を表す名詞の位置が正規の位置（前置格は前に、後置格は後）にあるかどうか注目しているからである。しかしながら、動補構造の用法としては最もポピュラーな統合形式ともいえる後置格を前においた構造、「NoVA了。」（“衣服做大了”など）を、動補構造の典型として取り上げ、さらに「NoA了。」を中核とみなす、马希文1987のような論考も存在している。

本稿では、動詞の後置格が表層で動詞の前に置かれているときには、すでに「位置移動が表す文法的意義特徴」が加わっている、すなわち新手の統合意義特徴がいくつか加えられているみなすことにする。

①動作主格の潜在化＝動詞の有意志特徴の削除

②主題化（特定意義特徴の付加，陳述特徴の排除，述部となる動詞または形容詞のなんらかの格を補充する要素でなければならない）

①②は後置格すなわち通常の目的語の前方移動に共通の文法的意義特徴を整理してみたものでもある。

が、ここでさらに、従来の論考ではVA型を「変化を表す文型」とする取り上げられ方が主流を占めることから、VA型の統合意義特徴を考察する際、アスペクト助詞（時に語気助詞兼用）“了”を統合型の必須の要素として扱い、VA型は深層構造においてVA了型として実現するものとみなすべきか否か，を検討しておくべきであろう。

三宅登之 1991 「“的”字結構里头的述补结构与“了”」《汉语学习第一期》p 22-26, は、連体修飾語のなかでのVA型に“了”が付くか付かないかについて論じたものである。連体修飾語のなかに位置する“了”は語気助詞（陳述レベル）ではありえず、アスペクト助詞（叙述レベル）に限られるため，“了”と統合意義特徴との関連をはかるには格好の資料となるので、その分析結果を日本語で要約してここに紹介する。なお、三宅論文では補語をC(Compliment)で表している。

A類= “VC的” “VC了的” が双方とも成立する。

A1= 租好的房子，睡着的孩子，打完的时候，扣紧的铐子，

【分析】Cが動作行為そのものを指す場合，二つの形式が可能である。

A2= 喝醉的老太太，跑乏的马，哭肿的眼睛，冻结实的柿子，

放馊的豆腐，烧红的煤球，截短的筷子，摔坏的眼镜，吃饱的蚊子

【分析】Vが表す動作行為そのものが不可避免的にCの状態を生み出すという強い因果関係がある。

B類= “VC了” のみが成立する。 （ ）内の名詞は筆者が補充。

过倒霉了的杂姓，用烂了的“英雄救美人”的套路，

转疯了的留声机片，洗粗了的（手），煮老了的猪肝，

挖浅了的（坑），锯长了的（木头）

【分析】VとCの間にはゆるい因果関係しかない。CはVから偶然生じた結果であり、予想しなかった結果である。“煮老了”などは一定の因果関係にあるものの、過分義（“＝煮得太老了”）つまりは見通しはずれだった結果を表す。これを“偏離”を表すと呼ぶ。

C類＝“VC”のみが成立する。

买到的地皮，听到的话

【分析】“V到”しかない。この“到”は方向補語に近いと考える。

この論文で挙げられたフレーズは筆者もインフォーマントチェックにかけ、情報確認をすませた。例えば“他租好（了）的房子很干净。”“警察扣紧（了）的手铐绝对打不开。”（中国語らしくない表現だが、動作主を修飾する場合も文法的には成立）“租好（了）房子的那个人”“扣紧（了）手铐的警察”など。以上の分析から、より明確にせねばならない文法上の問題点をいくつか取り出すことができる。

【問題点1】本稿は補語を形容詞に限って考察をする。なぜなら、形容詞がもつ格とその意義素の構成要素である意味的事項や意義特徴は動詞のそれとあきらかに異なるからであり、その述語動詞との関係も動詞が補語として用いられた場合とは異なっていると考えるからである。そして、形容詞がいかなる文法的位置にたとうと、その意義素（詳しくは意義素に含まれる弁別的意義特徴）は変化しないという前提にたつのが本稿の立場である。

まず、三宅論文B類の表す意味“偏離”は「形容詞の表す適正基準（期待値）との隔たりが大きいこと」とするのが一般的定義であるが、この適正期待値とは形容詞の意義素の構成メンバーとみなせるであろうか？。それとも、統合型レベル（VA型）の統合意義特徴の構成メンバーとして位置づけるべきであろうか？この問題を解くために有力な手がかりが1つある。

それは「褒貶を表す形容詞が“偏離”の意義を表現できないこと」を、次の

5つの論文が一致して認めていることである。

崔永华 1982, 与褒贬义形容词相关的句法和词义问题

语言学论丛第9輯p96-121

中川正之1987, 「中国語と日本語の形容詞」 日本語学 10月号 p49-57

岩崎皇 1990, 「動補文における比較の二類型—過分義現象をめぐる—」

中国語学 237 p71-81

陆俭明a, 1989, 说量度形容词

语言教育与研究第3期 p46-59

b, 1990, "VA了" 述补结构语义分析 汉语学习第1期 p1-6

1つ1つの文毎に考えてみるならば、期待値は形容詞の判断・評価基準を表すともみなせるかも知れないが、その期待値の具体的な程度設定は叙述を行う度に発話文脈や発話場面（行為の目的など）に基づいて、話し手によって設定されるものといえる。すなわち、期待値は意義素レベルでは規定されず、叙述の営みレベルで話し手（正確には聞き手を相手に働きかけてはいないので、「第一人称者」）が規定するものである。判断・評価基準には期待値のほかに、判断・評価の対象とした事物そのものに付帯する「常識的一般値（標準基準）」があると考えられる。しかしこれも、形容詞の意義素に含まれる固有の数値や価値観とは見なせず、名詞の意義素の方に含まれる弁別的意義特徴として扱うべきであろう。つまり“偏離”とは、文脈によって表される意味であり、形容詞そのもの、またはVA型によって表される意味ではないことになる。

では、それにも関わらず、褒贬形容詞という意味によって分類された形容詞のグループが“偏離”の意味を表せないとされている原因は、どこにあるのだろうか？、本稿では褒贬形容詞が判断方法として“偏離”の判定基準、すなわち「程度の差」をはかる「連続スケール」を用いずに、「分割スケール」（境界線を引く）を用いる評価方法をとるためと解釈する。分割スケールは基本的に事物に対する「範疇分け」を行うために用いるものと考えられる。つまり、意義素内の判断方法に関する弁別的意義特徴が、程度差をはかるものでないことが、

結果的に、“偏離”をも判定しない、つまり表せられなくさせているのである。

さて、次に三宅論文で“了”をつけることができないVC型（C類）がわずかに“V到”だけであったと指摘されている点について考える。本稿では“V到”が方向補語としての意味だけを表すことに注目し、VA型は“了”を原則として保持している統合型と考えることにする。このことは例えば、VA型を“没”を用いて否定する場合、「動作そのものは開始され完了しているのに、ある結果を獲得してはいない」という判断・評価をあらわすことから裏付けられよう。

【例】钢笔里的墨水没吸满，刚写几个字就沒水儿了。

（ペンのインクが十分入れてなかったので、いくつか字を書いただけでもう書けなくなった）

収集した例文をみても、“了”を用いずに使う場合がむしろマーク付き（圧倒的少数）の形式であり、常識的知識に支えられた「一般的にみて、順調に行けば生じる動作結果」までを「一つの事柄」として、事実の段階よりもひとつうえの抽象的概念としてもちいることになるといえる。こういうマーク付きのVA形式は「典型VA」として1つの形式のグループ（統合意義特徴だけでなく、統合意義全体として）をつくると捉えた方がよいであろう。（三宅論文ではA2グループ）

また、“常常”“是～的”などと統合することにより、「VA型内に潜在する“了”」の表す一過性が抑圧される場合がある。このことは、VA型の表す統合意義が、「よく生じる恒常的なできごとをのべる、つまり叙述時点を超越した真理に近い叙述、または何かの現実への解釈を表す論理的叙述」として扱われるためには、それらの叙述をあらわす他の形式と統合する必要のあることを逆に示しているとも理解できる。つまり、VA型内の統合意義だけでは恒常的なできごとや論理的判断は表現できないということであって、「VA型内の形容詞の判断・評価は動詞の表す変化が成立したそのあとで下されている」こと

と矛盾・排斥しあう文法的事実ではないと考えられる。

最後に、VA型に使われる形容詞のなかに、①“很”がついた形容詞②形容詞の重畳型（①②ともに朱徳熙 1956 によって状態形容詞とされた形式）が含まれないことは周知の事実である。このことはどう解釈すべきであろうか？

形容詞に性質形容詞と状態形容詞との2種類があることは、朱徳熙 1956 「現代汉语形容词研究」《语言研究》第一期（翻訳「現代中国語文法研究」所収 松村文芳・杉村博文，白帝社 1988）で初めて、具体例とともに指摘された。本稿の意味分析の視点から見れば、この両者の違いは次のように解釈できる。①スケールをあてるかあてないか、すなわち一つの価値基準を対象にあててみるかみないか？スケールをあてるならば判断・評価形容詞（褒貶形容詞も含む）（＝性質形容詞）として機能する。以下、「判断評価を行う」とする。②対象とした事物の中から一つの特徴を取り出して叙述しようとするかしないか？特徴をとりだすならば状態形容詞として機能する。以下、「描写を行う」とする。

以上の解釈に基づけば、VA型は次のような統合意義特徴【VA型統合意義特徴Ⅰ】をもつとみなすことができるであろう。

VA型はつねに述語動詞が表す動作行為の行われるある時点（不定時点）で、設定された連続・分割スケールを用いて、動詞が表す「事実」を形容詞が判断・評価する。（状態形容詞が使えない以上、典型的な描写はしない）

【問題点2】補語として用いられた形容詞は、動詞が表す事柄の変化、つまり従来から相、アスペクト、態などと呼ばれる意味の段階のどの部分を判断・評価の対象としているのか？VA型における動作行為と最終的に成立する状態との因果関係の強弱とは具体的にどんなことを意味するのか？

岩崎 1990（前出 p20）では結果補語に用いられた単独の形容詞がどのような比較を経て使われているかを考察して、2種類の比較の類型をたてている。『一つは動作以前の状態と、以後の状態との比較（以下「比較甲」と呼ぶ）。も

う一つは、動作の後に出現すると予想された状態と、実際に出現した状態との比較である（以下「比較乙」と呼ぶ）。』(p74)そしてこの2種類の比較と過分義・非過分義との対応関係を解釈している。要約すると次のようになる。

【岩崎論文要約】

	過分義	非過分義	比較甲	比較乙
a, 头发剪短了。	○	○	○	○
b, 头发剪长了。	○	×	×	○ ④
c, 衣服做大了。	×	○	○ ②	×
a', 长头发剪短了。	○	× ①	× ③	○
注) ①陸aでは○ ②平相での状態を“長”と指定する。③動作開始以前には物が存在しない。④形容詞にアクセントを置いて発音する。				

本稿ではこの「比較甲」と「比較乙」との差異が存在することを認め、かつその文法的意義特徴の記述（岩崎 1990 ではこのような表現をとっていないが）を妥当なものとする。また以下の考察にも同意する。「比較甲」の比較結果は非過分義つまりスケールのあて方、変化の方向（例えば“短”になったか“長”になったか）のみを表わす。また「比較乙」の比較結果は過分義つまり、変化の程度が大きすぎる（例えば短かすぎるとか長すぎるか）ことを表わす。

が、ここでその両者の文法的意義特徴は文法レベルを異にしているがゆえに、実際の文の意義を解釈する時の適用の仕方も異なることに、注意を喚起しておきたい。「比較甲」は動詞の相（すなわち、時間の流れではなく事柄の流れ）の中に埋め込まれた、形容詞の判断基準の1つ「具体的基準」を用いた比較の1パターンとみなせる。すなわち、①動作開始前の状態（以下「平相」と呼ぶ）に存在する事物を具体的基準として、動作の終了に伴って生じる新たな状態（以下「異相」と呼ぶ）に存在する事物を比較している。②その比較され合う二つの事物は動作行為の流れ（動作行為を行っている流動的状态以下「流相」と呼ぶ）が取り上げられる場合も含めて）を一貫して、一つの事柄としてみた場合は、同一のものである。

それに対し、「比較乙」に関連する過分義に関わる判断・評価基準となる「期待値」はそもそもが意義素やVA型のレベルで論じられるものでないことは、先に「問題点Ⅰ」で指摘したとおりである。したがって、VA型の統合意義特徴に含まれるものとして扱うことはできない。

「比較甲」の具体的比較基準に関する文法的意義特徴は、形容詞と組合わさる述語動詞の意義素構造つまり平相がどのような状態を表し、それが流相、異相でどういう変化と安定をみせるかという、「事柄の流れ」に深く関わるものであるがゆえに、VA型の【VA型統合意義特徴Ⅱ】として取り上げておく必要がある。

VA型は動詞の平相に存在する事物がそのまま異相まで存在した場合（すなわち「動作主格」「動作対象格」として存在した場合）、動作行為を完了した時に平相と異相との状態を具体的に比較した判断結果が、動詞の意義素が指示する「事柄」のうちで穏当な変化と認められた場合に「典型VA」となる。「典型VA」は他の文法レベルにおけるすべての比較判断基準（前出p20）を付加する（または受け入れて使用する）ことができる。

なお、動詞の道具格（介詞“用”を用いずに、動詞の賓語の位置においた名詞によって表される格）または個別の動作の実現に関わる「関連道具」（介詞“用”の賓語の位置においた名詞によって表される連用修飾要素）を主題とした「NtVA了」（“刀切鈍了”など）については、稿を改めて論考する。

### 3.3 VA型からV得A型へ変換できない用例の7類型

#### ——【M1リスト】の作成

前項では先行研究の検討を通して、【VA型統合意義特徴】Ⅰ・Ⅱを見いだした。以下、【統合型変換表】を参照にしながら、【パターン表】の用例を検討し、さらにVA型統合意義特徴を探り、V得A型の統合意義特徴との差異を検討していくことにする。



本稿では主に、【パターン表】のM1パターン＝V得A型への変換がきかないVA型（非典型VAに属する）の用例について見ていく。

VA型からV得A型への変換可能性を調べてみると、大部分が“V得很A”形に変換できるなかであって、パーセンテージは極めて低くても変換できないものが有る。この少数派のVA型にどのような語義上での特徴があるのかを検討することは、2方向から中国語の統合意義特徴を調べることに他ならない。

①「典型VA」ではない動詞と形容詞の組み合わせが、VA型の統合意義特徴が加わることに拠って統合が促進されたと考える。つまり、VA型の統合意義特徴の「動詞と形容詞の統合にプラスに働く機能」を調べる。

②VA型の統合意義特徴によって通常の語義的呼応を示せる動詞と形容詞とが、V得A型の統合意義特徴が加わることに拠って統合が阻害されたと考える。つまり、V得A型の統合意義特徴の「動詞と形容詞の統合にマイナスに働く機能」を調べる。

そこでまず、パターン表から【M1】に数えられているVA型の用例を取り上げて、類型別のリスト【M1リスト】を作ることにする。インフォーマントにはV得A型への変換を考える際、①VA型で使われた名詞をそのまま用いること。②“把”“被”の使用も考慮すること。の2点に留意してもらった。

【パターン表】のM1欄の表記のうち、次の記入があるものは【M1リスト】から除外する。「AA」とあるのは、形容詞についての補語である場合を指し、除外する。「Vi」とあるのは、その補語が意味的には形容詞との境界線にある自動詞であることを指す。V得A型に変換できないことから、VA型の補語となっている形式が自動詞としての文法的意義特徴をもっていることが判明すると捉えなすこともできる。

また、【M1リスト】の中で用例がゴシック体であるものは、V得A型の変形パターンが「V得NsA了」。(李aの「得(2)」型)であることを示す。

さて、意味上の解釈と、【統合型変換表】にも関係する深層構造の格関係と

を勘案した結果、V A型からV得A型に変換できない動詞と形容詞の組み合わせを7つの類型にわけることになった。そして、できあがった【M1リスト】を【統合型変換表】と対照してみると、【統合型変換表】では、わずか【1・5】だけがV得A型へ変換できない形式を示すのに対し、本稿が調査した【M1リスト】の用例は【統合型変換表】ではV得A型へ変換可能なタイプに属しているにもかかわらず、V得A型への変換ができないことがわかる。項目横の【 】内のNoは、その項目のM1パターンの用例が深層構造で表す格関係にほぼ相当する格関係を表す【統合型変換表】のナンバーである。

【M1リスト】V得A型への変換できないV A型の7類型

①本来の形容詞の意味が特殊化している。

念白了（読み間違え）、看扁了（見下げる）、吹皱了（小波がたつ）

②動作の経過・やりかたを評価する。

【1・1】【1・4】【2・1】【3・1】【3・2】

V错（～し間違える）、V坏（～し損なう）、看好（よく調べる）、

③動作の対象物に生じる変化【2・2】【3・3】【3・4】

- ・動作の目的に明確に反する結果が生じる。

垛歪（きちんと積み上げたはずの物が傾く）、蒸老（蒸しすぎて固くする）、

- ・持続する刺激がその動作の目的とは関わりのない結果を招く。

穿烂、戴烂（着古してボロになる）、

④動作の過程で動作主に生じる変化

- ・動作主の行動が本人の身体に影響を与える。【2・3】【2・5】【3・5】

踢暖和（サッカーをするうちに暖くなる）、

气饱（怒りのあまり食欲がなくなる）闻饱（臭いを嗅いでいるうちにおなかがいっぱいになる）

喊破（喉がはりさける）、笑破（おなかがよじれる）

睡扁（頭がいびつになる）

氣歪（怒って口元がゆがむ） 哭干（涙が涸れる）

V膩（～するのにあきあきする）、

⑤行為や状況に関わる場面の変化 【2・4】

- ・無意志のまま移動する動作主（以下「当体」と呼ぶ）が、その移動する場所の状況に影響する。

流干（液体が流れ出て、なくなる）、

刮晴（風が吹いて、空が晴れる）

下湿（雨が降って、地面が濡れる）

- ・極めて一時的に、あるスペースを占める

烤満（焼き鳥がいっぱいになる）、泼満（液体がまいてある）

⑥行為や状況が極限值まで到達する

揍扁（ぶちのめす）、上満（めいっぱい、巻く）、烧傻（高熱で狂う）

V坏了（徹底的にわるい状況になる）、V清了（完全になくなる）、

⑦動作の継続時間や能力の差などの分量

V差了、V长了、V満（＋経過時間）、

## 4 7 類型の分析

【M1リスト】にとりあげた順にしたがって、また個々の形容詞については【パターン表】のアルファベット順に各用例を検討していく。どの動詞とどの形容詞が組合わさった場合に、V得A型に変換できなくなるかを分析してみると、VA型とV得A型についていくつかの知見を得られるはずである。こういうパーセンテージの低い特殊例は、典型的用法とおしの間をつなぐ境界線に位置する用法とみなすことができる。典型的用法の如何なるものかについては【統合型変換表】によって概要がすでに把握できているので、以下の分析

は、「境界線のひかれ方によって典型（VA型とV得A型）間の区別を明らかにする」ことを目的としている。なお、VA型の用例は《汉语动词—結果補語搭配词典》（以下、《搭配》とする）からとっている。（\*\*はVAの位置を示す）V得A型の用例はインフォーマントの作例である。

#### 4.1 形容詞の意味の特殊化—【M1リスト①】の用例

【M1リスト①】VA型に意味の特殊化が生じている

念白了 他把这个字\*\*了。

看扁了 这样的常识他哪能不知道呢！你简直把人\*\*了。

吹皱了 微风把平静的水面\*\*了。

VA型のV白了，V扁了，V皱了では形容詞本来の意味（白い，ペチャンコである，皺がよっている）を表せるものがV得A型に変換できている。ゆえに，本稿ではVA型の統合意義特徴が形容詞のなかの多義構造の一部を取り出す働きをして，VA型として統合を促進させたものと見なすことにする。ただし，その働きは極めて個別的なもので，“白”は副詞としての「ムダに～する」からの類推，“扁”“皱”は「個体の形状への判断」を人物や液体へ照射してみせるシステムからなると考えられ，質量ともに語彙体系をなすほどのものではない。

このようなM1パターンのVA型はM2・M3パターンになるVA型と形容詞の意味が何らかの意味で異なることは，通常の語感の持ち主ならば素直に肯定できるはずである。（例えば“白”のシロイとムダニ）ここで，単語の多義現象を意味論の中でどう位置づけるかをあらためて検討する必要が生じる。

國広哲弥 1994「認知的多義論—現象素の提唱—」言語研究 106, p22-44, では「認知」と「現象素」という二つの概念を従来の「意義素」と次のように関連づけたうえで，多義の構造を解析しようとしている。

『認知とは知覚内容にある解釈を加えたもの』（注—知覚を客観の反映と

考え、認知を主観的なものとしている) p23

『語が具体的場面で用いられるときは、場面・文脈によってさまざまに異なる意味を表面的に示すが、その異なり方のかなりの部分は場面条件、文脈的要素と連動しており、その限りにおいてその語自体の意味から取り除いて考えることができる。こうして得られた語自体の意味を我々は「意義素」と呼ぶ。(省略)しかしこの考え方は「あるひとつの語形には一つの意義素しかない」と主張しているのではない。そういう単義のことももちろんあるが、すでに述べてきたように、ある同一の現象に基づく認知的多義が認められるならば、(注一あるひとつの語形の)意義素はふたつ以上になり得る。この同一の現象のことを「現象素」と呼ぶことにしよう。これは単なる外界の一部というものではなく、人間の認知作用を通して、ひとまとまりをなすものとして把握された現象を指す。これは実質的には従来用いられてきた「指示物」(referent)に相当するものであるが、同じではない。指示物は言語とは関係のない外界の存在物と考えられていたのに対して、現象素は言語の用法から帰納された、言語と関連を持った外界の一部と捉えられるものである。』 p25<sup>(4)</sup>

そして多義の構造として、國広1982 (p111～)において挙げた11項目の多義のうち、1～7項を認知的多義に属するものと捉えなおしている。本稿ではひとつひとつの用例についてどういう多義であるかのパターン分けは行わない。しかし、単語の意義素の多義を上記の國広の意見のごとく捉えることにする。

また國広1994はさらに、認知的多義のほかに論理的多義があることを指摘して、言語を支える人間の精神活動のありかたについて、こう述べている。

『これ(論理的多義)は文脈的前後の論理的关系から生じる、という意味である。これは外界に指示物を持たない、文法的な語の場合にみられる』

p32

『多義に認知的多義と論理的多義を認めることができることから言えば

るように、言語は人間の認知活動と論理的思考の上に成り立っている。つまり、言語・認知・論理はそれぞれ別の働きでありながら互いに複雑にかみ合っていると考えられる。(省略) 一方、認知と論理のすべてが言語によってすくい上げられるとは限らない。「筆舌に尽くし難し」という場合がそれであり、これは認知のある部分は言語表現に移し得ないことを示すものである。

また、数学の分野では数式でしか表現し得ない思考があるであろう。』

p29

本稿でVA型の統合意義を分析するにあたって、動詞の意義素と形容詞の意義素との相互関係を考察しようとする場合、動詞の意義素が表す現象素のどの部分の状況が、形容詞によって判断・評価対象とされているのかを考慮せざるを得ない。すなわち、動詞と形容詞という異なる意義素体系を有する単語ごとの意味をつきあわせ関連づけるためには、単語の意味を意義特徴で構成された意義素体系のなかからいったん解放し、意義素が指示する現象素の内部を観察する必要が生じるのである。また、VA型という統合型の統合意義特徴をこれまで文法的意義特徴の一種とみなしてきたが、本稿での規定のありかたからみても、これまで意義素論の立場から分析されてきた文法的意義特徴の実質をみても、語義的意義特徴を認知活動を表すもの、文法的意義特徴を論理的思考を表すものとはほぼ比定してよいのではないだろうか？。ただし、一つの単語は現象を認知すると同時に単語、言語形式間の関係を示すメタ言語機能をも持つわけて、通常、語義的意義特徴と文法的意義特徴の双方を合わせ持つ。

さてそこで、これまで統合意義特徴の規定に用いた意義特徴も、基本は文法的意義特徴(叙述レベルのもの)でありながら、一部、語義的意義特徴も持つが予想される。以下、語義的意義特徴とみなすべきものを、四つのレベル分けとともに列挙しておく。

・「～の事柄」(単語レベル)・「～の出来事」(叙述時点が関わる叙述レベル

→「事実化した」とも言う)・「～の現実」(話時点に関わる陳述レベル→

「現実化した」とも言う)・「～の評価・判断・描写を行う」(単語レベル)

さらに本稿では、複数の単語(特に外界に現象素をもつ単語)に関わる統合型の統合意義特徴を分析するために、個々の統合型全体が表す統合意義に対しても、単語の意義素が指示する現象素のに相当するものを設定し、それを「現象枠」と名づけることにする。以下、VA型の用例の意味として記述されるのは、ほとんどがこの「現象枠」を記述したものに他ならない。

#### 4.2 動詞の流相への評価－【M1リスト②】の用例

##### 【M1リスト②】

做错	她刚学做衣服的时候, 常常**。
走错了	你**路了, 应该往右拐, 不能往左拐。
订好了	明年要订的杂志我已经**了。
看好了	当时我太着急了, 这件衣服没**就买了。
试好了	这双鞋你怎么没**, 就买了。
录坏了	这盘磁带录坏了, 我想重录一盘。
买坏了	孩子的上衣**了, 不知道能不能退。
擦腻了	你怎么刚擦了两下儿玻璃就**了。
去腻	不管多好玩儿的地方, 一年去几次也会**的。

“錯”は120個の用例すべてがV得A型に変換できない。“对”が典型パターンへ変換できるのと対称的である。語義的には評価(褒貶)形容詞の一種あるが、基本的には自動詞として捉えるべき単語であろう。原因はいろいろ考えられる。①“很”“非常”“更”など、副詞の修飾を受けない。(“很”の修飾を受けても“是～的”構文など特殊な文脈を必要とする)②否定形“不错”がひとつの形容詞(すばらしい)として意味の特殊化を生じている。(間違っていない→正しい→“对”)という、分割スケールを用いた判断が成立しない。などの言語事実が自動詞とみなす要因に数えられる。

“好”はよく（ちゃんとVする）と訳されるように、（ある目的を果たす）という意義特徴を含む「意識的かつプラス価値の伴った行為を表す有限動詞」と共起する確率が圧倒的に高い<sup>(5)</sup>。“訂”（予約する）はこの条件をみたしているが、V得A型では“他的草稿自己訂的，但订得很好。”（装丁の出来映えがよい）という別の「具体的な形状を判断・評価する語義」が優先される。したがって、V得A型へ変換がきかない原因は，“好”と組み合わさる動詞には、行為の目的を表す意味と具体的な動作を表す意味とが混在するものがあり、前者の意味はVA型で受け入れられやすく、後者の意味はV得A型で受け入れられやすいことであるといえよう。

また，“訂好”“看好”“试好”は文脈の中ではじめて具体的な動作が定まる（例えば電話をかける，セータをひろげる，靴を履くetc）ばかりでなく，動作の対象物が変化をうけた結果も表さない。このことは，M3パターン（形容詞を連用修飾語として使う）へ変換した場合（“好好儿地V一下”），この“好好儿地”が動作主に目的を遂げるよう意志的努力を促す意味を持つことから裏付けられる。筆者はこのような，流相に関わり，しかも判断を表すVA型は，「時刻・距離・スピード」（“V早，V晚”・“V远，V近”・“V快，V慢”）以外はV得A型へ変換できないのではないかと予想している。

“坏”は《搭配》では（1）ruin,damage;make disabled or useless（2）fail;fall through;make things worse（3）badly;awfully;very（4）spoilと分けてあるが，（1）（2）（3）のグループすべてがM1パターンと報告されている。このうち（3）は，【M1リスト⑥】の，「マイナスの価値が極限に達する」意味を表わすので，この項ではとりあげない。（4）についてはp53で詳述。【M1リスト②】の“录坏”“买坏”は（2）の意味として分類されていたものの用例をとりあげたが，この（2）の意味のV坏形の中にはV得A型に変換すると，意味の変化が生じるものがあった。

这盘磁带（的质量）录得坏。（カセットテープが録音しすぎて傷んだ）



期末考试我考得很坏。

(期末テストの成績がひどかった)

この2例は「V A型意味がちょっと変わる」という内省報告つきで使うとされた。行動が失敗したという評価よりも、行動の成果(状態)を判断するニュアンスに変化するらしいが、かといって(1)の範疇でもありえない。(1)すべてがV得A型への変換が効かない、自動詞(そのものの自体の現象素のなかに、動作主または当体の変化の様子がふくまれる、つまり弁別の特徴としても変化を表す)とみなされるからである。周知のごとく、V得Vi型は原則として成立しない。V坏形の(1)(2)は“坏”が自動詞であるためにV得A型に変換できないと考えられる。

また、次の5つの変換例は「より普通の表現がV槽形でありV坏形ではない」としたうえでV坏形を△とする報告があった。

画得很糟，写得很糟，演得很糟，印得很糟，照得很糟

この5例に共通しているのは、動詞が対象格ではなく、生産物格をもつことである。生産物は動作が行われて初めて存在するようになる、いわば動詞の異相にだけ出現するものである。“糟”が「その産みだした結果がまずい」という生産物への評価を表すことは明白であろう。“V坏了”が動作の過程「流相」への評価を表す(なぜなら、生産物への評価を表しにくい)とする解釈がここでも裏付けられる。

“V膩了”では次の少数例(8例)がV得A型への変換が可能とされている。

呆得很膩，等得很膩，(没完没了的家务)干得很膩，逛得很膩，过得很膩，

(数学课)教得很膩，(上学)上得很膩，住得很膩

これらの用例に共通しているのは、①動詞の弁別の特徴として「時間を費やす」が含まれること、または②文脈に拠って動作が長くおこなわれることが明示されていることである。どちらも形容詞“膩”の弁別の特徴「長い時間が無意味に感じられ、同じ事を続けているのがいやになっている」と語義的に自然に呼応する意義特徴である。V得A型はV A型に比べ形容詞の本義を優先的に

用いるために、それにふさわしい原因格をV得で表わさなければならないことがわかる。それに対し、V得A型に変換できない“V膩了”は、「動作の最中に飽きてくる」ことを表し、動詞そのものには長時間継続する意味が弁別的意義特徴としては含まれていない。

#### 4.3 対象物の変化への判断—【M1リスト③】の用例

##### 【M1リスト③】

蒸老了            鸡蛋羹别\* \*了，我爱吃嫩的。

垛歪了            那堆稻草\* \*了，所圣被大风吹倒了。

“炒老”ならV得A型に変換できるにも関わらず，“蒸老”は変換できない。それは“蒸”が「蒸気によってフカフカとやわらかい料理を作る」という目的をもつためと考えてよからう。同様に“垛”が「きちんと積み上げる」という異相で実現すべき目的、結果までを意義特徴に含むので，“挂歪”“长歪”などがすべてV得A型に変換できるのに対し，“垛歪”だけが変換できない。このことは「V得」に後置される補語が表す評価・判断のみならず、描写・事実までが必ず「V得」中のVの現象素が異相まで完遂されたことをきっかけとして成立することを窺わせる。従来からも、「因果関係を表す」という意味解釈がVA型・V得A型双方に対して行われてきたが、両者が表す因果関係の違いはここにあると考えることができ、それを統合意義特徴としてとりだしておく。

##### 【V得A型統合意義特徴Ⅰ】

V得A型の現象枠には「V得」の意義素が指示する「動詞が他の名詞と結ぶ格関係を有し（名詞の現象と融合してつくった現象枠の一部として存在し、）かつ異相まで完遂した現象素」がひとつ存在する。それは事の流れは示すが叙述時点を担うことのない、事柄を表す。また、その他に形容詞の意義素が指示するもう一つの「格関係を有する現象素（現象枠の一部となるべき現象素）」が存在する。それら、動詞と形容詞の現象素の間には、

形容詞が格として判断, 評価対象・描写対象・原因・経験者(叙述時点を超越した論理的結びつき)のどれをとるか<sup>(6)</sup>, および形容詞が動詞と関連するどの現象素(「V得」を含む)をその格に当てるかによって, 統合型の統合(被指示物としての現象枠)が1つ成立する。

この統合意義特徴と【VA型統合意義特徴I】(p22)とを比較してみると, ①VA型では動詞の表す事柄の流れ(アスペクト)を時間の流れに位置づける不定時点に関わり, V得A型では「V得」が事柄(いわば典型V, 弁別の特徴からのみなる)を表し, いかなる時点もかぶせられることがない。②VA型では形容詞は動詞の意義素が指示する現象素のうち平相・流相・異相の各相について判断評価するが, V得A型では形容詞は動詞(V得形)の現象素全体をひとつにとらえ, 「事柄としての動作行為」として格を担わせることができる。

戴大了            这种线手套新的时候戴着很紧, 戴几天就\*\*了。

穿烂了            这件工作服穿了好多年了, 都快\*\*了。

戴烂了            那副劳动手套都快\*\*了, 该换一副新的。

(外から力を加える動作がはっきりしない。放置して自然に変化)

摔烂了            西瓜从卡车上滚下来\*\*了。

砸烂了            他的脚被大石头\*\*了。

(V得A型では“碎”が優先される)

“戴大了”は(手袋をはめているうちにゆるんでくる)という経過を表す。“戴几天”(数日はめている)という, 事柄の流れではなく時間の流れを経た変化であるが, 「無作為のまま, ある結果が導き出された」ためにVA型の統合意義特徴がその現象素を典型VAのものに類似するとみなして, 統合を促進させたと解釈できよう。しかしV得A型への変換はできない。

《搭配》では“烂”を3種類に分け, (1) sodden;mashed;pappy (2) rot;fester (3) worn-out, messy と訳している。(2)はM1パターンに属し, 訳語も辞書の解釈も自動詞の意味として扱っている。(1)はできあがっ

た料理に関する柔らかさを表し、すべてV得A型への変換ができる。ここにとりあげた“穿烂”“戴烂”は(3)のうち、V得A型へ変換できないものであり、変換できるもの(圧倒的多数を占める。“剁烂”を例示)と比較するとやはり「無作為のまま、長時間かかってある結果が導き出された」という語義的特徴が見いだされる。V得A型へ変換できるV烂形のVにはこういう特徴「無作為のまま」はない。

剁烂了            做饺子馅儿用的肉一定要\*\*了。→肉剁得很烂。  
→你要把肉剁得烂烂的。

それでは何故、V得A型はこれらの語義的特徴をもつV烂形からの変換を受け入れないのであろうか?それは先にも触れたように、「V得」に次のような文法的意義特徴があるためと考えるよいであろう。

「V得」は事柄を示すにとどまり、動詞の表す弁別の特徴以外は表示しない形式であるために、「弁別の特徴以外の特徴を特に必要とするような動作」を指示できない。

以下、この規定を【“V得”の文法的意義特徴】とする<sup>(7)</sup>。

なお、“戴破”は“已经～了”を加えることを必要条件として、V得A型へ変換できる。“烂”より“破”のほうが変化を表しやすいためもあるか?

这顶帽子已经戴得很破了，再买一顶。

#### 4.4 動作主の身体に生じる変化—【M1リスト④】の用例

##### 【M1リスト④】

踢暖和了        本来觉得身上很冷，踢了一会儿球\*\*\*了。

(行為をしているうちに自然にある状態になっていく。)

气歪了            这次他可真生气了，你看他的嘴\*\*\*了。

哭干了            丈夫死后，她非常难过，眼泪都\*\*\*了。

(極めて一時的な変形・状態)

睡扁了	他的脑袋大概是小时候* *了。
看饱	看小说能* *吗? 快来吃饭吧。
气饱了	生气就* *了, 哪儿还吃得下饭。
闻饱了	厨师整天在厨房里, 光闻油味就* *了。

(典型VA型からの類推で, 遠因になる行為に因果関係を比定する。実際の形状・状態の成立過程を表してはいない。)

刚 guǎi 破了	我的手让钉子* *了好几处。
喊破了	我嗓子都快* *了, 他还没听见。
说破了	你就是* *了嘴, 他也不会听你的。
笑破了	他讲的那个笑话把我的肚子都快* *了。

(身体部位について, 非現実的な形状であることが明かである。)

“踢暖和”は, 格関係の特徴では【統合型変換表】【2・5】(p14)に属する。また, VA型の典型VAのパターンを擬されて, VA型の統合意義特徴によって統合が促進された形式である。したがって, V得A型へ変換させるには①「V得」の後に置かれる身体部位として“浑身”を加える必要がある。また, ②「V得」が表せない(長時間しているうちに)という現象素を補充する文脈的特徴を加えなければならない。

我踢了一个下午球, 踢得浑身暖和。/暖暖和和的。

\*?? 我整天踢球踢得很暖和。/暖暖和和的。

不適當とされた用例(\*??)を検討してみると, 統合を妨げる要因として次の3点が見いだされる。

- ① “整天”は期間を表し, 動作が進行中または継続することは表さない。
  - ② 「VN←V得A型」の統合型の中の「VNo」が表す動作行為は原則として「事柄」であり, 特定の叙述時点をになう一回性の「出来事」ではない<sup>(8)</sup>。
- 【統合型変換表】のうち, 【3・1】【3・2】【3・3】の典型例としてあげられた用例を合わせみても, 「VNo」を(～をVする行為一般)という情報提供のため, すなわち判断対象格「V得」を語義的に補うための形式

であると解釈してよいであろう。

③ “很暖和”が感覚形容詞として選べる格の置かれるべき位置をみると、経験者格としてはまず主語の位置の“我”，原因格としては感覚に先立つ動作・行為として“踢得”が優先される。この位置関係はV得A型の周知の（典型的）格関係として【統合型変換表】の格関係解釈にあてはめることができた。しかし、動詞が選ぶ格関係を考慮するならば，“我”は“踢”の動作主としての格をまず担い，“踢得”はスポーツの一つとして、その弁別的意義特徴の範囲では「技能の高低・肉体運動の有り様・試合の評価などを受けるべき事柄」とされるのは明かである。V得A型の主語（この例文では“我”）は動詞と形容詞の格を二重に担える位置（文法成分）ではあるが、「V得」の意義素にとっては身体を暖める機能などは極めて随時的なもの、つまり発話が外界に設定する意味領域（状況の中におかれた現象素）には含まれ得ても、意義特徴には含められない。その叙述時点において文脈に拠って付加される文脈的意義特徴とみなされる。したがって“踢得”は原因格を担わない。“气歪了”“哭干了”における“歪”“干”は、それぞれ口元が一時的にゆがむ様子、涙が一時的に枯渇する様子を指示するのであって、恒常的にゆがんでしまった口元の形状を描写するのでもなく、完全に涸れ果てた涙線の状態を判断するのでもない。したがって、V得A型への変換は難しく、VA型の弁別の特徴“了”のアスペクトと共起する（ある一回性の事実が生じたことを表す）を形式として保証できる、V得NsA了型へのみ変換する。

爸爸生气，气得嘴歪了。 / \*\*很歪 / \* ? 歪歪的 / 那么歪。

她哭了半天，哭得眼泪都干了。 / \*\*很干 / \* ? 干干的。

“睡扁”は「人の容姿への関心が産みだした詮索・理由付けの一つ」であり、実際に頭のかっこうが“扁”である人間はいない。

ここでM1パターンに属する形式とした、いくつかの“V饱”も実際に食物を口にしておなかをいっぱいにした状態を表現してはいない。“看饱”は、霞

をくって生きているように見える人種への関心が産みだしたV A型であり、“气饱”“闻饱”はものが食べれなくなる生理現象への関心が産みだしたV A型であるといえる。これらはV A型の中で、形容詞がすでに弁別の特徴を抑圧されている。また、身体部位に関する“V破”も同様である。

ここで、これまで何度かV A型との対比の中で触れてきた「V得A型内の形容詞の使われ方」についての特徴をとりあげて【V得A型統合意義特徴Ⅱ】とする。

V得A型では形容詞の本義が第一に優先され、その本義が基本的な格関係を支配する。

本義から派生義へは原則的に次の優先順位がつけられる。

- ①具体的な形状の判断・描写、②スケールが明確で数値化できるような判断
- ③好悪の判断・知覚を基準とした評価、④感情・感情を誘発する状態の描写

#### 4.5 行為や状況に関わる場面の变化—【M1リスト⑤】の用例

##### 【M1リスト⑤】

流干了	等游泳池的水**了，好好儿刷洗一下，然后再放水。
刮晴了	半个月以来，一直是阴雨连绵。昨天夜里突然刮了一阵大风，把天**了。
下湿	雨怎么下这么一会儿就停了，地皮都没**呢。 雨下了半天，把地皮都**了。

“流干”の現象枠を考察して、動詞と形容詞の現象素どおしの関係を見いだそうとする場合、①当体である水分に注目すれば（その水分が移動する）②液体の存在する場所に注目すれば（その場所から水分が消滅する）、という二つの視点がありうる。しかしながら、“流干”には水分の移動・動きを引き起こすきっかけとなる動作行為はどこにも含まれていない。“V干”というV A形式のうち、V得A型へ変換できる用例はすべて、動詞が③「水分を移動させ

る外圧（方法）」にふれている。また“干”の判断・評価対象が④「物体やスペースに含まれる水分」つまり当体であることは、“流干”と同じである。

壺里の水熬干了。（ヤカンの水が煮詰まった。）

→壺里の水熬得很干／干干的。（ヤカンの水がカラカラになっている。）

空气太潮湿，衣服晾了一天还没晾干。（湿気が多くて、衣類を1日干してもまだ乾かない。）

→衣服只一个小时就晾得很干／干干的。（衣類が一時間でもう乾いた。）

“流干”では上記の語義的意義特徴③を表していない故に、V得A型への変換ができないと考えられる。当体の動きそのものだけを表すこのようなVA型は、パターンとしては、【M1リスト⑥】の行為や状況が極限值まで到達する意味を表すと捉えることもできよう。

“刮晴”“下湿”は【統合型変換表】【2.4】の一部とみなせる。その現象枠のなかで動詞と形容詞の現象素のつながりを考察するならば、“晴”は風が吹く場所“天空”（“刮”場所格はない）を判断（評価）対象とし、“湿”は雨が降る場所“地皮”（“下”に場所格はない）を判断（評価）対象としていることがわかる。しかも、その場所是一个の現象が平相から流相、異相へと変化する「舞台」であり、ある事実が起きる「スペース」であって、閉じた空間として“把”の賓語になり得る。すなわちVA型内の動詞の現象素のバックグラウンドともいえる場所を共有する点で、形容詞と動詞とは関連づけられている。ただし、風や雨そのものという当体の去就を表していないために、V得A型へ変換することはできない。

突然刮起来的大风，刮得天空要晴了。／很晴。

雨下了两个小时，下得地皮都湿了。／很湿。

では、やはり場所またはスペースに関連がありそうな次のVA型がV得A型にならないのは何故であろうか？

烤满了          他的炉台上\*\*了白薯。



泼满了 剧地前他们先在地上\*\*了水，然后再用笤帚扫。

流满了 暖气管子漏了，地上\*\*了水。

“V満”の“満”については、李子云 1990「补语的表述对象问题」中国语文 第5期 p338-343, が、①方位詞が主語にしか付けられないこと、②“満”は場所主語がたてられたなら、その場所について述べると論じている。

『教室挤满了学生 → 学生挤满了教室。

教室里挤满了学生。 → × 学生挤满了教室里。

教室里满了。 (方位短语“教室里”在上述句子中可以充任主语而不能充任宾语。)] (p340)

ただ、何故“教室里”が賓語にならないかは述べていない。

本稿では、動詞“挤”は“挤在～”の形式で場所をうしろにとるものの、それは動作主の存在場所を示す場所であり、“来”“在”が持つような動詞の場所格をになうものではないとみなす。また、“満”の用例を分析した結果、“満”が「スペース＝①限られた空間、または②何かを収納する機能をもつ物体」を判断対象としてとるために、“V満”の賓語の位置に場所詞が置かれるのは非文法的になるという結論に達した。

さらに、存現文成立のメカニズム(単語レベル・統合型レベル・叙述レベルにわたる文法的操作)を原則として次のように解釈する。有意志動詞に前置される格は動作主であり、そうでない格を担う名詞が動詞の前に置かれた場合は、何らかの統合的意義特徴が特に加えられたものとして考える。(p17 参照) そして場所詞<sup>(9)</sup>が主題にたてられると動作主格が排斥され、それに伴い動詞が表す動作から有意志の特徴が消滅させられる。同時に賓語の位置に表れる名詞が人間を表す名詞であっても「当体格(無意志でありながら移動・出現・消滅の動きをみせる)」となると考える。

このような“満”の格の表れ方はVA型とV得A型の変換にどのような影響を及ぼすであろうか?“満”の判断(評価)対象格を本当に「スペース」と捉

えてよいのか？またそのスペースは主題として置かれる「場所」と同じ文法的特徴をもつのか、動詞の意義素内ではどう位置づけられるのか？以下、順序が逆になったが個々の用例を分析しつつ、上記の解釈をあとづけしていく<sup>(10)</sup>。

【パターン表】で“満”を調べると、ほとんどがV得A型へ変換できる。しかし変換にあたっての際だった特徴としてあげられることは、典型パターン（「V得很A形」のみ可能）ではなくM2パターンをとり、しかも「V得AA的形」と双方可能なものと、「V得AA的形」のみが普通の表現とされたもの（☆マーク）とが相半ばしていることである。

まず、3人のインフォーマントが最初から一致してV得A型へ変換できると報告したVA型は次のものである。

【M2・V得很A形+V得AA的形】（以下【M2】とする）

安排満（ある期間の日程がつまる）、抄満（紙いっぱいに書き写す）、  
盛（chéng）満（おわんいっぱいに盛る）、倒満（コップいっぱいにつぐ）  
堆満（倉庫に山積みになる）、灌満（瓶に注ぎ込む）、接満（おけに水を受ける）、  
排満（スケジュールがすきまなくなっている）、鋪満（道いっぱいを覆っている）、  
塞満（引き出しがいっぱいである）、添満（やかんの水をふやす）、斟満（グラスに酒をつぐ）、装満（本棚に入れる）

3人のインフォーマントのうち、一人が例文を提出するとすぐ他の二人も使えたと同意した用例（VA型）をあげると次のようになる。最もよく使われた文脈上の工夫は、V得AA的形の前に「場所+“都”」を置くことであった。さらに、前後に（何何をしにいったところ～）（だから何何を～する）という、状況に対する補足が続くものとして報告された。

【M2・V得AA的形】（以下【M2☆】とする）

安満（壁にとりつける）、別満（勲章を胸につける）、补満（ボタンをつける）、插満（周囲に旗をたてる）、揣満（懷に隠す）、搭満（棚をわたす）、戴満（運動選手がメダルをつける）、垫満（柵の中にワラを敷き詰める）、釘満（壁に釘を打ち付ける）、结満（木に果実がたわわになる）、开満（公園の花が一面に咲く）、刻満（石

碑にびっしりきざんである),

停満(場所いっぱい駐車場にいる), 種満(庭いっぱいに植えてある),

(これらのV得很A形は, すべて△印にとどまっている)

そして, 最後までM1パターンとして, V得A型へ変換できそうにないと言われていた, 25個の用例について, 「場所(方位詞付き)+当体(いっぱいあるもの)+V得AA的」という句型を応用するようにと指示したところ, 先に挙げた“烤満”“泼満”“流満”の3例を除きすべて口語調の【M2☆】として容認された。数例をあげる。

箱子里报纸捆得满满的。(箱に新聞がくくられていっぱい入っている)

风刮得很大, 地面上树叶落得满满的。(地面一面に落ち葉が散っている)

手上白面沾得满满的。(手にいっぱい小麦粉がくっついた)

また, “把”でスペースを指定して自然な【M2☆】になる用例もあった。その場合は“把”の前に意志を持ったものとしての動作主が置かれている。

来开会的人把饭店住得满满的。(参会者でホテルがいっぱいになった)

听课的人把教室坐得满满的。(聴講者で教室が満杯になった)

以上の【M2】のVA型と【M2☆】のVA型とを比べて, 一見していえることは, 【M2】に属するVA型が次のような特徴を持つことである。

- ①動詞の意義素のなかに, 「スペース」格が弁別の特徴として含まれている。
- ②その所属する句(叙述内容)が付加してくる文脈的意義特徴によって, 「スペースが指定されていること」がすぐ了解できる。
- ③そのスペースを提供する物を指示する意義素自体に, “満”であるかないかに注目されるような機能が弁別の特徴として含まれている(例えば倉庫, ビン, 引き出し等)。
- ④その行為を行う目的からみて結果(異相の状態)が“満”であるかどうかが重視される行為(例えばスケジュールをたてる, あるスペースに敷く等)である。

それに対し【M2☆】に属するVA型は, その句が指示する意義領域において確かにある場所が満たされてはいるものの, その場所自体になにかを入れる

特別な機能があるわけでもなく、動作行為の目的としてスペースが関わっているわけでもない。

【M2】【M2☆】の区別を生じさせる要因については次項で他のVA型とあわせ、検討することとし、一応ここまでの用例の検討によって、当初の“満”の格の表れ方についての仮説は立証されたものとする。ここでV得A型に変換できない“V満”形について考察する。

“烤満”の用例では、じゃが芋などをあぶる場所が通常は竈の上と決まっているために、存現文の主題として場所詞“炉台上”が意義領域の中に含まれたなら、“烤”という行為のバックグラウンドと見なされうる。そのためにVA型の統合意義特徴によって統合が促進されているとみなせる。しかし、“烤”の弁別の特徴のなかに格としてのスペースはなく、むしろ焼け具合など典型的に注目される様相が他にあり、“炉台上”にもスペースとしての機能より、より鮮烈な機能があるため、“炉台上白薯烤得满满的。”は△程度の許容度さえなくなると考えられる。

“泼満”では、“泼”程度の撒き方では液体がたっぷり残るほど量がないという語感をもっとも大きな障害となってV得A型が成立しなくなるようである。ちなみに“撒満”は変換可能。“撒”の弁別の意義特徴のなかに何かを撒いて加えるという異相への目的意識を含むためと考えられる。

果树上撒满了农药。→果树上农药撒得满满的。

(個体なら姿が残るためか？より自然な表現になり、很A型も可能になる)

咸菜缸里，盐撒得满满的。／很满。

そこで、VA型“泼満”における“満”のためのスペースは動作の行われるバックグラウンドであればよく、“泼”という行為が行われる流相での場所でもかまわないが、V得A型では異相での独立し、隔離されたスペースの様子が描写対象として取り出さねばならないため、変換がきかなくなると解釈できよう。

“流満”はよほど大きな池でも連想すれば、V得A型でも△にはなるらしい

が、それでも“装满”でなければふさわしくないと報告された。“流”は持続動詞で変化終了後の異相への規定をもたないにも関わらず、VA型で“流満”が可能なのは、やはり流相でのバックグラウンドとしてのスペース様子を“満”が捉えているからと考えてよい。

## 5. V得很A形とV得AA形の対比—【M2リスト】の用例

前項で明らかになった、【M2】と【M2☆】との用法の違いは、「V得很A形」と「V得AA的形」との統合意義特徴の違いを示すとともに、「很A」と「AA的」との様態補語としての文法的意義特徴の差を示すものと言える<sup>(11)</sup>。本稿では、重畳形をとれる形容詞についてのみ、なぜ「很A」「AA的」の片方しかとれないのかを考察することによって、両者の相違点の解明を試みる。

まず、【パターン表】でM2欄に☆印のついた用例＝重畳形のみを様態補語とする用例を考察し、いくつかの意味分類をする。

### 【M2☆リスト①～④】

①その物としては異様な形状であったり、比喩的な形容をされている。

罐头摔得扁扁的。（下へ投げつけて滅多にない形状になる）

肚子饿得瘪瘪的。（形状としては比喩的）

她看见一条蛇，把腿吓得软软的。（“把”N型が必要，形状としては比喩的）

一跤把鼻子摔得歪歪的。（“把”N型が必要，形状としては比喩的）

②人間の生理状態・感覚に変化を起こす。

V得呆呆的。→惊，看，听，想

／被吓得呆呆的。（“被”が必要）

（“很呆”はすべて△；自動詞の一種ともみれる）

他突然猛击一拳，把我打得愣愣的。——

……，我被打得愣愣的。——（“把”N型または“被”が必要）

→问愣，笑愣，（“把”N型または“被”が必要）

→\*\* 看愣, 听愣 (M1パターン)

(“很愣”はすべて△; 自動詞の一種ともみれる)

连续发烧四天, 把他烧得迷迷糊糊的。(“把”N型が必要, “睡”も同様)

→灌迷糊 (“很迷糊”も可。“灌醉”より連想)

(発熱中, 睡眠中の流相の容態を表す)

③平相のスペースにあったものが異相では消滅する。

要把撒了的墨水吸得干干的! (\*? 墨水吸得很干) (“把”N型が必要)

油耗得干干的, 必需加油的。

c.f “流干” 参照: “耗”も直接には外圧を意味しない

V (自動詞) 得光光的。→ 流, 漏, (液体がなくなる)

／跑, 死, 走 (人がある場所からいなくなる)

他把家产折腾得光光的。 (“把”N型が必要)

那个商店的东西(被)买得光光的。——

大米只用15分钟就卖得光光的。—— (在庫がなくなる)

④本来, ある状態になりそうにない物をその状態に変化させる。

毛衣要弄得潮潮的。 (“要”が必要; アイロンかけなど)

你别把抹布蘸得湿湿的。 (“把”N型が必要)

【M2 ☆リスト①】 【M2 ☆リスト④】の様態補語の用例は, 很A形が使えないことを通して, 「很A形が格を担うものとして求める名詞には, 通常その名詞の意義特徴のなかに, その形容詞(A)の①スケールが当てられる, または②取り出して描写できる弁別的意義特徴を含まねばならない」ことを示すといえよう。一方, 「AA形は(“要”“把”N型などによる)文脈的補充に支えられて, その名詞の叙述時点における意義領域のなかに, その形容詞(A)が取り出して描写できる意義特徴を含まねばならない」ことも示すと考えられる。

たとえばVA型“蘸湿”(ちょっとつけて湿らす)であれば同じように使える“抹布”と“笔”であるが, V得A型では“笔”だけが自然に“蘸得很湿”“蘸得湿湿的”の双方と共起する。それは, ふでは濡らして使うのが普通であ

り、雑巾は水分が少ないほど用が足りるという、事物その物の特徴が異なっているためと考えられる。比喩的で特異な形状がAA形のみで表されるのも同様の理由と見てよいであろう。

また、AA形の様態補語に“把”N型の使用を必要条件とする用例がある理由は【M2☆リスト②】“V愣”を分析すると、より鮮明になる。それらは「動作主の刺激的動作行為が、他人の精神を攪乱する」という、現象枠のなかでも内部の現象枠どおしの関連付けを認めるのに相当な論理的思考を要する統合意義である。そこで、言語形式のうえでも“把”N型によってマーク付きで描写対象格（後述）を持ち込まれる必要があったのだと考えられる。言い替えれば、言語形式のうえで因果関係を明らかにして、動作主と経験者の区別を明確にする必要があるとも言える。VA型でも典型的用例は前句で状況説明をすませ、後句で“把”N型を用いる確率が高い。

#### 【“把”N型導入例】

她这一问真把我问愣了，我半天都没回答上来。

（彼女のこの質問は、私の意表をつき……）

→他突然大声问我，问得我愣了。（很愣，愣愣的ともに△）

→他突然大声问我，把我问得愣愣的。（很愣，は△）

别催他了，再催就把他催胡涂了。

（……これ以上せかしたら、彼をまごまごさせる）

→他们催了我好几次，真催得我很胡涂／胡里胡涂／胡涂了。

→他们催了我好几次，真把我催得很胡涂／胡里胡涂。

那个恶霸地主把当地的老百姓欺负苦了。

（あの悪徳地主はこの土地の人民をいたぶり苦しめた）

→那个恶霸地主把当地的老百姓欺负得很苦。

【統合型変換表】の【2・2】【2・4】では、補語が精神的な状況を表す用例は挙げていないので、もう少し他のVA型を検討しておく。

“问愣”に対して“问胡涂”はV得A型になると、VA型が表した（質問さ

れてわけがわからない) という、Vの動作主とAの経験者が異なる統合意義ではなく、(質問のしかたが他人にとってはわけがわからない) という、一人の動作主の動作に対する判断評価または描写を加える統合意義も表せる。

我不知详细情况，他猛地一问，真把我问胡涂了。

→→他问老师问题总是问得很胡涂／胡里胡涂的。(質問のしかた)

→→他突然大声问我，把我问得很胡涂／胡里胡涂。(精神的状況)

→→他突然大声问我，问得我很胡涂／胡里胡涂。(精神的状況)

同様に“笑傻”も“笑胡涂”と異なり、V A型の格関係と異なった格関係を持つV得A型を表せる。

他走进门圣后，大伙一笑把他笑傻了。

→→看着照片上儿子笑得很傻的表情，他不由自主地笑了。(笑い方)

そこで、V A型においては等しく(他者の行為から影響を受けて、ある精神的状況を呈するにいった) という因果関係に結ばれた統合意義をあらわす動詞と形容詞であっても、V得A型では形容詞の本義が生かされ、動作行為のやりかたも描写することができるようになる。そして、動作行為の描写で動作主と経験者が分離しない場合は“把”N型が導入されないことを確認できる。

さて、それでは以上の変換パターンのうち、Ns1V得Ns2A型(【統合型変換表】の【2・2】【2・4】【2・5】【3・5】を参照)はどういう統合意義特徴を持つであろうか? “把”N型よりもNs1V得Ns2A型の方を明らかにより自然とする用例(内省報告では◎と○の違い)をあげ、“把”N型の導入形式との違いを検討する。

#### 【Ns1V得Ns2A型】

丢惨了 去年旅行时，我带的东西全部丢光了，可真把我\* \*了。

→ 这次旅行带的东西全丢了，丢得我很惨／惨了。

→※※ 我丢东西丢得很惨。(使えない)

浇惨了 半路遇上了一场大雨，把我们两个人\* \*了。



- ……，浇得我们两个人很惨／惨了。
- 说困了 他们说的内容我一点儿都不感兴趣，简直都把我\*＊了。
- 她没完没了地说，说得大家很困／困了。
- 晒困了 春天暖和的阳光都把我\*＊了。
- 初夏的太阳晒得我很困／困了。

以上が代表例とみなせるが、叙述内容に語義的な共通点のあることが比較的是っきりわかる。①外から来る刺激が、何かの意図を持つものではない。②影響を受ける者の方は、不可抗力のままある状態に陥る。それに対し“把”N型は少なくとも「ある効果を予想した（または予想される）刺激が発せられる」という文脈的意義特徴と必ず呼応しあうという違いが認められる。必ず呼応しあうということは、“把”N型そのものが表す文法的特徴とみなしてよいと考えられる。

さて、形容詞が人間の感情や人間への評価・描写を表すもの（“苦”のように重畳形のないものも同様）が“把”と共起せねばならない場合の原因については解釈がすんだものとして、次の用例について検討する。

【パターン表】作成時に“把”N型または“被”を必要条件として成立する」と報告されたV得A型の形容詞はほとんどすべてが重畳形であった。

なぜ、V得很A形には“把”N型の導入がなくてよいのに、V得AA形には“把”N型が必要とされるのか？しかも、インフォーマント調査では“把”N型を使うことを指示しない前は「AA形は使えない」とされていたものが、いったん“把”N型の用例を思いついた後は“把”がなくても、NV得AA形的形で通じる」という語感の変化が生じることが多かった。“把”N型は文法的な拘束力（格関係の指示など）をもつ形式としてよりも、何らかの文脈的意義を提供する形式として意識されているようである。この内省報告の分析をおこなうことは、朱德熙1956が「很＋形容詞（很A）」形と形容詞重畳（AA的）形とをともに状態形容詞の一種としたことに対し、様態補語としての很A形とA

A的形の差異を検討し、その両者の下位区分を明らかにすることでもある。

【例】“把”N型が加わってはじめて自然な表現になるV得AA形

要把棚子搭得矮矮的！	棚子搭得很矮。
把墙刷得白白的！	墙刷得很白。
他把那个铝锅擦得白白的。	地板擦得很白。(※铝锅)
把棉花絮得厚厚的！	棉花絮得很厚。
她把布织得薄薄的。(上手であるという含意)	布织得很薄。
她(故意)把字写得草草的。	字写得很草。
要把这裤腿接得长长的,才好穿。	这裤腿接得很长。
要把头脑搞得活活的,才能想出办法来。	
他把车开得慢慢的。	车开得很慢。
他们把小船划得远远的。	小船划得很远。
老师把这一篇作文都看得仔仔细细的。	老师把作文看得很仔细。

具体的な動作に限っては、“把”N型の使用に必要な文脈的意義特徴すなわち“把”N型そのものの語義的特徴は次の3点かと思われる。

①動作主が目的意識をもち、動作主の動作行為を通して、重畳型の形容詞の描写する状態が(賓語No・動作「V得」・動作主Nsの現象素どれかのなかで)成立する必要がある。

②賓語Noが生産物格(動作がすんだ異相ではじめて存在できる)の場合は“把”N型よりも、「No 要V得AA型」の方が優先される。例えば「白菜丝要切得粗粗的。」で“把”N型を選んだ場合は(わざと)の含意が生じる。

③その現象の成立は、叙述時点の前でも後ろでもよく、時制は無規定である。ただし、①動作主を明示しなければ命令文になる。②動作主を明示すれば描写文になる。という叙述の分かれ方は形容詞を述語とする「論理叙述」ではなく、動詞を述語とする「事実叙述」と同じといえる。否定副詞“不”では否定できないが“没”によって未発見であることを述べたり、後述するように時間副詞と共起したりできることも動詞述語文に似ている。

では以上のような文脈的意義と呼応するV得A A形はV得很A形とどこがこうなっているのか？さらに他の文脈的呼応を調べることにする。

【例】文脈意義特徴の付加

他（故意）急得快快的，让人听不清。

他跑得慢慢的，好像非常累的样子。

近来（or 这些日子）他回来得晚晚的。

スピードや時刻に関する形容詞は判断・評価形容詞の典型であり，很A形ならば「V得」を判断対象格とするシンプルな表現がなりたつ。例えば「急得很快，跑得很慢，回来得很晚」など。ところが，その形容詞が重畳形となった場合には，文脈に「現場指示または時間限定」が加わらなければ，自然な表現にはならないと報告されている。この語感とは3人のインフォーマントに共通していて，文脈的意義特徴を思いつかないときには，「使わない」という報告をだした人もいたぐらいである。A A形は很A形に比べ，「対象の一時的状態を描写する」と捉えてよいであろう。

【例】時間副詞“正”“已经”が加わってはじめて自然な表現になるもの

午饭正吃得好好儿的，忽然肚子疼起来。（生理現象の場合）

那份稿子已校对得好好儿的。

这课树长得好好儿的，不知叫谁给砍断了。

她（倒酒）倒得好好儿的，不知为什么，被叫走了。

我们（打球）打得好好儿的，天忽然下起雨来。

我们正玩儿得高高兴兴的，忽然下起雨来。↔ 今天他们玩儿得很高兴。

“好”は褒義形容詞の典型であり，評価形容詞であるが，上記の例からも重畳形になるとやはり叙述の営み方に変化が生じ「一時的に評価を下す」ことを表すといえよう。また，“高兴”は感情形容詞であり，心理動詞と形容詞の間形態と捉えられる。それでもやはり，重畳形を様態補語に使うには「対象の一時的状態を描写している」ことを文脈の上で明示せねばならないようである。

本稿では上記の言語事実を形容詞の格の選定と、こう関係づけることにする。

【判断・評価対象格と描写対象格】

判断・評価対象格は判断・評価形容詞の弁別的特徴に必ず含まれる意味的事項「スケールの基準」「スケールをあてる方法」「判断・評価結果」について、そのスケールと呼応できる弁別の意義特徴をもつ名詞・事柄表現によって担われる。一方、描写対象格は「名詞・事柄表現が指示する（弁別的とは限らない）意義特徴をとらえて、描写叙述する形容詞」の格となる。

この格の充足のしかたを叙述の営み方から捉えなおすならば、①很A形は「ある名詞・事柄表現が判断形容詞の判断対象格であることを論理的に保証する」叙述を表すのに対し、AA形は「ある名詞・事柄表現が指示しうる属性または状態を随時的に（＝ある叙述時点における状態として）描写する」叙述を表す。②很A形は「判断対象格を担う名詞・事柄表現との意義素どおしの統合（現象枠の形成）を前提として成り立つ述語形式」であり、AA形は「名詞・事柄表現が個々の文脈で示す叙述時点・叙述場面の意義領域（現象枠が区切りとられる、背景となった状況）のなかから、意義特徴を選び出す述語形式」である。なお、ここでいう事柄表現とはV得形のことである。

## 5 VA型とV得A型の統合意義特徴

本稿で随時指摘してきた統合意義特徴をリストアップすると同時に、これまで触れなかったパターンの用例をいくつか挙げて、それらを補足する。

【VA型統合意義特徴Ⅰ】(p22)

VA型はつねに述語動詞が表す動作行為の行われるある時点で、設定されたなんらかのスケールを用いて、動詞が表す「事実」を形容詞が判断・評価する。（状態形容詞が使えない以上、典型的な描写はしない。－感情形容詞による描写にとどまるものとし、次稿で考察する）。

【V A型統合意義特徴Ⅱ】(p24)

V A型は動詞の平相に存在する事物がそのまま異相まで存在した場合（すなわち「動作主格」「動作対象格」として存在した場合）、動作行為を経て平相と異相との状態を具体的に比較した判断結果が、動詞の意義素が指示する「事柄」のうちで穏当な変化と認められた場合に「典型V A」となる。そして他の文法レベルにおけるすべての比較判断基準を付加する（または受け入れて共起する）ことができる。

☆【V A型統合意義特徴Ⅰ】の中の「ある時点」についての補足

V A型の中には、動作主の長い動作行為をへて動作主や動作対象にゆっくりと生じてきた変化を表すものもある。こういう時間をかけた変化は、原則として動作主・動作対象の属性（性格・形状を含む）の変化に関わるものであり、動作行為の進行と属性の変化とが同時進行する事に因って現象枠内の現象素どうしが結び付けられている。「同時進行」という現象を、「同じ時点」として捉え直すものとする。

宠坏的            这孩子是叫爸爸给\* \* 的。

带坏了            那个淘气的大孩子把小孩子都\* \* 了。

（“坏”の4番目の意味 spoil は、他に“惯坏”“教坏”“学坏”）

☆【V A型統合意義特徴Ⅱ】の中の「典型V A」についての補足

動詞と形容詞とのV A型での統合を促進する文法的機能が、この「典型V Aへの比定」（典型V Aに擬す習慣）に因るものであることはすでに述べた。その一方で、【統合型変換表】【3・3】にとりあげられている、“买大”“买小”と“买贵”“买便宜”などはこの典型V Aへの比定ではなく、日常生活での買い物のしぶりへの強い関心が特殊表現を作り出している。

①適正基準と比べて、大きすぎるか小さすぎるかに関心がある。適正基準に合致する“买好”に対し、そうでない場合の表現をV A型として習慣化する。

买大了            这双鞋\* \* 了，能给换一下吗？

→ (V得A型では、VA型を支えた適正基準の存在が明確になる)

他买鞋总是买得很大。(大きめのものを買う癖がある)

②具体基準と比べて、値段の高い低いに関心がある。

买便宜了 你这辆车\*\*\*了,按市价买要贵得多。

→ (V得A型でも、具体基準が文脈に表れることが多い)

这儿卖得比城里便宜。

### 【V得A型統合意義特徴Ⅰ】(p34)

V得A型の現象枠には「V得」の意義素が指示する「格関係を有し、かつ異相まで完遂した現象素」がひとつ存在し、それは叙述時点を担うことのない、事柄を表す。また、その他に形容詞の意義素が指示する「格関係を有する現象素」が存在する。それら、ふたつの現象素を指示しているふたつの意義素の間には、形容詞が格として判断(評価)対象・描写対象・原因・経験者のどれをとるか、および形容詞が動詞の関連するどの事物(「V得」を含む)をその格に当てるかによって、統合型の統合が1つ成立する。

### 【V得A型統合意義特徴Ⅱ】(p39)

V得A型では形容詞の本義が第一に優先され、その本義が基本的な格関係を支配する。

本義から派生義へは原則的に次の優先順位がつけられる。

- ①具体的な形状の判断・描写、②スケールが明確で数値化できるような評価
- ③好悪の判断・知覚を基準とした評価、④感情・感情を誘発する状態の描写

☆【V得A型統合意義特徴Ⅰ】の中の「V得」についての補足

動作行為を事柄として捉えた「V得」は、具体的な時と場余から遊離しているという点で、名詞では総称名詞にあたる。さらに、動詞に最も少ない情報量つまり格だけを加えて、最もシンプルな動作・行為のパターンをしめすのが

「VOV得A」形の中の「VO」と捉えることができる。「VO」の「O」には指示詞も連体修飾語もつかない。対象を指定した、より具体的なより細分化した動作・行為のパターンは“把”N型で表される。

你洗手绢儿洗得脏脏的，別洗了！（ハンカチ洗うのがへたなんだから、もう

やめなさい！……賓語に“这・那”はつけにくい→「洗い物をする」）

他们打球正打得高高兴兴，……（“打篮球”では使いにくい→「球技をする」）

VO形の付加はV得A型の基本的な統合意義特徴に、動作行為の一般的範疇を広げさせ、VA型よりも広い機能を発揮させる要因のひとつである。例えば、VA型の“洗脏”は洗濯用水に使われる表現であって、洗濯ものには使わない。

☆【V得A型統合意義特徴Ⅱ】の中の優先順位についての補足

多義語の構造のなかで、人間の知覚と認識作用がもっとも自然に働ける順序について、認知科学の分野で大方の意見は一致をみつつある。

## 6 おわりに

本稿はVA型の側を基準としてV得A型との比較を行ったものである。議論の万全を期す為には、V得A型の側を基準として「V得A型が成立するのに、VA型の方が成立しない、VとAの組み合わせ」について論じる必要がある。さらにその際、動作・行為を詳述する連用修飾統合型A地V型も視野にいれて、V得A型と対比することが、中国語全体の統合型分布・統合型意義特徴を考察するのに必要なことだと考える。稿をあらためて論じたい。

1 インフォーマントとして協力してくださった方は次の3名の北京出身者。

卢测焰 22才，杨烈光 24才，蔡晓军 39才

蔡さんは北京外語大学の日本語学科在籍の教師で、再三にわたり用例のチェックを引き受けてくださった。ご協力に感謝いたします。

- 2 この資料は、千葉陽一君（1993年当時、明海大学4年）のレポートを基にしている。ここに記して感謝いたします。
- 3 本稿では弁別の特徴と示差の特徴という概念を別のものとして両方とも使用する。「弁別の特徴」を「その語形が常に表示する必要十分な意義特徴の束であり、意義素を構成する」と規定し、「示差の特徴」を「その言語体系において意義素とおしを区別するのに必要十分な意義特徴であり、意義素の一部を構成する」と規定する。
- 4 筆者は「人間を形容する形容詞の意義素記述」における日中対照研究」1992明海大学外国語学部論集第5集（p78）、において、「異なる言語間で単語どおしの意味が似通っていることをどう定義づければよいか？」という問題について考察した。その際、外界への認知のありかたを意義素、統合型、文型とレベル分けしないまま、「互いの意義素の（指示する）意義領域が重なっていること」「同一の外界事物が互いの形式によって代置されること」とした。本稿では「意義領域」を（文型のうちの）叙述内容が指示する外界の現象とし、「意味領域」を（文型のうちの）陳述を含めた文が指示する外界の現象として、規定しなおすことにする。
- 5 大滝1992では形容詞の前置格としてこの4種類をたてた。
- 6 これは、筆者が「中国語離合詞が提起する文法問題（その1）」1990明海大学外国語学部論集第3集p99において、結果補語“完”と“好”が挿入できる離合詞の語義的特徴を比較調査した結果である。
- 7 「V得」の文法機能については、実質的にはほぼ同様の考察結果を提出した論考がある。

杉村博文1992「補語を導く“V得”の文法機能」中国語12月号No395, p34-37 内山書店

『さて、我々は／述de／からいかなる情報が得られるであろうか。試みに述詞を“説”（話す）で置き換えてみると、我々が“説得”から得られる情報は“説”の語彙的情報のみであり、“説”という行為の種々の相（アスペクト）に関する情報はいっさい欠落していることに気付く。』p35

李临定1986《現代汉语句型》p225-255 商务印书馆

『この点からも、／述de／の動詞の役目は多種多様な叙述あるいは描写を行うことではなく、描写され説明されることを待っているものであることがわかる。』（杉村1992 訳）

- 8 町田茂1992（p102）にはこういう指摘がある。

『一般に動詞は実詞であり、実質的な意味と文法的自立性を有する点で虚字“把”とは区別されなければならない。しかし動詞反復式VOVR・VOV得C中の第一



のVは、Oがnon-referentialになりやすいことから明らかなように、往々にして動作を概念的に表しており、また文法形式においては、次の二点で一般の述語動詞としての性格を失い、より虚字的になっている。①“了・着・过”を付加することができない。②V不V式疑問文を作ることができない。(省略)動詞が述語動詞の性格を失うという現象はV1O1が原因や手段を表す連動式V1O1V2O2の中のV1にも認められる。』

- 9 いわゆる“处所主語”(場所主語)は存現文という表現形式を成立させるが、この問題は改めて論じることにする。本稿では動詞の格を動作主格以外は原則として賓語の位置に表れると解釈するため、場所主語＝「場所格」とは認めない。
- 10 本稿で提出した“満”とスペースとの意味関係に、別の観点から考察を加えた論考に次のものがある。

杉村博文 1992「場所を処置対象とする“把”構文」中国語9月号No392 p34-37, 内山書店

- 11 動詞と関わるという共通項をもつ連用修飾語としての「很A地」と「AA地」とも比較対照しつつ考察すると論点がよりはっきりすると思われるし、これについての資料も【パターン表】のM3パターンに表れている。しかし、本稿の方法で連用修飾統合型の統合意義特徴を考察する場合には、新たに①句のなかにおけるアスペクトと時制の接点②介詞によって導入される二次的格(道具, 目的を含む)などにふれることが予想されるため、稿を改めることにする。

連用修飾語としての「很A」と「AA的」の文法的機能の違いを、動作以前動作過程・動作以後との関連に注目して考察した論文には次のものがある。特に重畳型の連用修飾語が進行を表す副詞「在」と共起できるのに対し「很+形容詞」の連用修飾語は共起できないことなど、を指摘している。

原由起子 1989「程度副詞“很”と状語の関係について」姫路独協大学外国語学部紀要第2号 p173-190,

- 12 重畳形をとれない形容詞については、各種辞書の記述や、次の論文を参考にし、考察の対象からはずした。それらの形容詞の意義素に共通の(語義的・文法的)意義特徴としては現在のところ、単音節形容詞については①貶義の傾向が強い。②したがって、連続スケールではなく分割スケールで判断する傾向が強い。ということしかいえない。2音節形容詞になると、形容詞自体には共通の要因が見あたらない。さらに検討を加える必要がある。

李大忠 1984「不能重叠的双音节形容词」『语法研究和探索(二)』p207-223 中国語文雑誌社

陆俭明 1980 「“程度副词+形容词+的”一类结构的语法性质」『语言教学与研究』  
p33-45, 外语教学与研究第IV期

【パターン表】

	矮18	安定2	安穩2	暗2	白13	1	薄20	飽7	饱满1	扁13	1	瘠14
典型	8			2	12		5		1长			
M1						1念		4		3	1看	3
M2	5		2		1刷		10	3		9☆1		6☆1
M3	7	◎2	◎2	★点			13	☆1吃				

	惨11	草1	差11	俾2	长15	16	潮2	彻底2	成熟3	迟3	充分3	稠4
典型	11		1穿						3	3		
M1			10	2		15	1受					
M2		1写			15	1拖	☆1弄					4
M3		1			2			◎2			3	☆1熬

	臭4	1	蠢1	粗7	2 2	错120	大28	2 2 2	呆1	6	低5	2	端正2	短9
典型	4	1搞	1干				5	2 1长				2		
M1						120	1戴	1带		1发				
M2				5	2 2		22		2	1变	☆5	5	2	9
M3				3			☆5				☆3	☆5	◎2	☆2

	对18	钝2	多33	11	1	肥2	2	丰满1	复杂3	富2	干19	干净10	16
典型	18	2	13	7					3	2			
M1				4							3		
M2			20		1撈	2 2	1长				13☆1	10	16
M3			☆7		☆1			1				◎10	◎16

述語補語統合型の統合意義特徴

	高18	2	高兴1	光24	★贵2	好99	★合理2	★合适2	黑8	红20	1
典型					2						1唱
M1						3					
M2	18	2	1玩儿	12☆12		96			8	17☆3	
M3	18		◎1	☆1吃		93	2	2			

	厚7	糊6	胡涂17	花4	滑1	猾2	坏62	18	19	5	黄4	1	灰心1	浑2
典型		6	2			2		5AA		5				
M1			1AA	2			62Vi	13Vi	19			1搅		
M2	7		15	2	1磨						4			2
M3	7		☆12	☆1抹									1说	

	活4	2	1	机灵2	急3	1	1	寂寞2	尖3	尖锐	简单5	★贱1
典型	3		1说	1学		1吃	1等					
M1		2Vi			3Vi				1熬			
M2	1搞								2			
M3				1变				2	☆2	1堤	◎5	1卖

	僵3	1	焦2	结实15	紧14	紧凑2	近5	净14	2	久10	旧6	具体2	精2
典型	3	1冻						12	2	8	6		
M1								2					
M2			2	15	14		5						2
M3				◎15	14	2	4			☆2		2	

	精确2	均习3	渴4	空7	3	苦4	快10	1	宽9	宽敞1	困7	★蓝1
典型			4			2	1加		2		6	
M1					3Vi						1说	
M2				1☆6			8	1磨	6			1染
M3	2	1★2		☆1腾		☆2	8		7	◎1盖		

東洋文化研究所紀要 第128册

	烂3	5	15	老1	2	1	累29	冷1	愣5	利害3	利索4	凉3	亮5	绿3
典型	1炒		2	1变	1炒	1长	27			2				
M1		5Vi	5		1蒸				2					
M2	2		9					1变	☆3		4	3	5	3
M3	2		1刳				2		2☆2	1说	◎3			

	乱16	麻3	满73	6	慢11	猛1	迷糊3	密5	明白11	模糊3	木1	难1	恼2
典型	4	1坐				1使						1出	2
M1	1打		3	6									
M2	6	2	37☆33		7		1☆2	5	11	3	1冻		
M3	11		3☆30		11		1睡		8	1◎印			

	嫩2	赋32	蔫2	1	黏1	緩和8	胖4	便宜2	偏4	平13	破30	平均1
典型		9							2		13	
M1		23				1踢					4	
M2	2		1变	1晒	1弄	7	4		1磨	13	12	
M3	2		1说		1	2		2	☆1挂	13	1磨	1分

	平穩2	齐7	13	齐全3	浅3	1	巧4	青10	清14	3	轻1	2	清楚18
典型							4	10	14				
M1										3			
M2	2	7	13		3						1放		18
M3	◎2	5	☆1湊	3	☆3	☆1編					1	2	◎16

	清醒1	晴1	穷4	全9	确实1	熱14	软4	1	★弱1	傻3	3	散2
典型	1吹		4	9		4			1減			
M1		1刮								1烧		
M2					1打听	10	4	☆1吓		1变	3	2
M3					◎1	☆3	☆3			☆1吃	☆2	

述語補語統合型の統合意義特徴

	少12	深3	2	神1	湿11	瘦5	舒服2	熟13	7	9	1	順3	2	★松1	饒3
典型						1买		1讲	7	7		1	1排		
M1					1下										3Vi
M2	12	3	2		6☆3	4	2	1背	2	1睡				1拧	
M3	4☆8	3	2	1说	☆1擦		◎2	12				2	1改	1	

	酥1	酸13	碎16	太平1	陶气1	疼20	1	★甜1	1	1	痛快3	通顺1
典型			★2		1学	20	1刺					
M1		1累	★2									
M2	1炸	12	16					1做	1笑	1睡	3	
M3			☆8						1		◎3	1写

	透9	7	6	★透彻1	秃2	★妥当2	歪17	弯1	7	晚26	完全2	旺2	温2
典型	4	2					5			20	1答	★1	
M1	1湿		6Vi				2						
M2	3	3			2	2	6☆2		7			2	2
M3	1浇	5		1分析		2	4☆3	★1笑	☆4	2☆4	1说	1烧	

	穩3	稀4	1	细6	1	细致1	咸5	详细9	响7	小13	斜9	★兴旺1	絮烦2
典型									1踩	1买			
M1													
M2	3	4	1熬	6	1磨		5	9	4	12	9		
M3	3	☆4	☆1	☆5	☆1	1做		◎9	6		9	1办	2

	严10	1	严买2	厌烦4	野2	硬5	愚蠢1	冤1	圆4	远14	晕15	5	匀7
典型				2	2	1织		1花			15		
M1												5Vi	
M2	10	1管	2			4			4	12			7
M3	☆10		◎2	2			1办		4	☆14			7

東洋文化研究所紀要 第128冊

	<u>匀称</u> 2	<u>晕</u> 1	<u>脏</u> 16	<u>糟</u> 3	4	<u>早</u> 20	<u>扎实</u> 2	<u>窄</u> 7	<u>直</u> 14	<u>整齐</u> 5	<u>正</u> 3	<u>肿</u> 6
典型	1写	1看	16		4	1跳						
M1												
M2				3		5	2	7	14	5	3	6
M3	1摆					15☆4	◎2			◎5		

	<u>重</u> 2	1	<u>皱</u> 6	<u>周到</u> 3	<u>壮实</u> 1	<u>准</u> 6	<u>准确</u> 1	<u>仔细</u> 1	<u>紫</u> 6	<u>足</u> 7
典型	1说									
M1			1吹							
M2			5					1看	6	7
M3	1批評	☆1		3	1长	6	1说	◎1		☆5